

小さく産まれた赤ちゃんへの保健指導のあり方に関する
調査研究 報告書

平成31（2019）年 3 月



みずほ情報総研株式会社

小さく産まれた赤ちゃんへの保健指導のあり方に関する調査研究 概要

本調査研究では、低出生体重児、多胎児およびそれ以外の赤ちゃんの保護者へのアンケート調査を通じて、子供の健康・発育・発達に係る不安や支援ニーズ、生活状況等の実態を把握し、相互比較するとともに、インタビュー調査等を通じて自治体等が低出生体重児や多胎児の家族に対して行う母子保健等の支援の好事例を収集し、その知見をもとに、母子保健事業で活用できる資材を作成した。

市区町村アンケートの実施

【実施内容】

後述の保護者 web アンケートに関する協力自治体の確保や、インタビュー調査の対象とする自治体の取組情報の収集を目的として、2018（平成 30）年 12 月に、全国の 1,741 市区町村を対象としたアンケート調査を実施した。

調査年月	2018（平成 30）年 12 月
調査対象・方法	全国の全 1,741 市区町村を対象としたアンケート調査を実施した。調査は、各市区町村の母子保健所管課宛てに依頼状「「低出生体重児・多胎児に対する支援に関するアンケート調査」へのご協力をお願い」を郵送し、web を通じて回答を求める方法をとった。
回収数	869（回収率 49.9%）
調査項目	・母子保健部門による低出生体重児・多胎児に特化した事業の有無・内容 ・近隣の医療機関による多胎児に特化した事業の把握状況・内容 ・保護者 web アンケート調査の依頼状配布への協力の可否

【実施結果】

調査の結果、869 の市区町村の回答が得られ（回収率 49.9%）、うち 91 の市区町村（以下、協力自治体）の協力が得られることとなった。

保護者 web アンケートの実施（子育てに関する保護者アンケート調査）

【実施内容】

低出生体重児や多胎児の保護者の抱える大変さや悩み、支援ニーズを把握し、啓発資材の作成等にあたっての参考とすることを目的として、保護者を対象とした web アンケートを実施した。

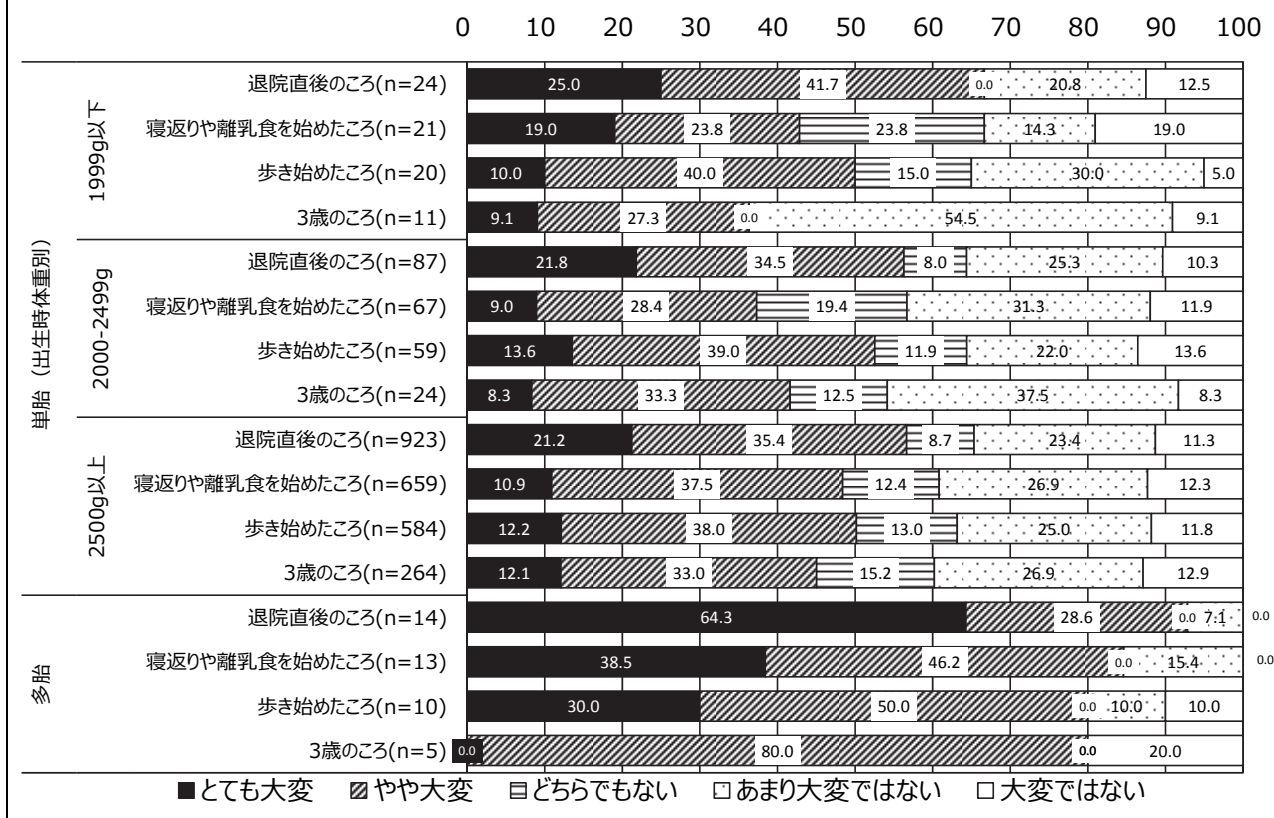
調査年月	2019（平成 31）年 1 月
調査対象・方法	2019 年 1 月に、協力自治体を通じて、集団方式の乳幼児健診（3～5 か月児健診、1 歳 6 か月児健診、3 歳児健診）を受診した子どもの保護者に、回答用サイトの URL や回答方法を記載した「保護者アンケート依頼状」を配布し、回答を依頼した（配布件数：計 13,707 件以上）。
回収数	単胎：1142 件（うち出生児体重 2500g 未満は 111 件）、多胎：19 件
調査項目	【共通】 ・居住市区町村、保護者の年齢、子どもとの続柄 ・単胎/多胎、受けた健診の種類、きょうだいの有無、出産時の妊娠週数、出生児体重 ・日中の過ごし場所、定期的受診の有無、医療的ケアの必要性 【単胎用】 ・切迫早産での入院の有無 ・子どもの成長過程別の子育ての負担感の大きさ、負担感・不安の内容 ・心配ごと等の克服方法、欲しかった・欲しいサポート 【多胎用】 ・出産前の入院週数、妊娠中に心配だったこと ・多胎児用の育児用品の準備、困ったこと ・子どもの成長過程別の子育ての負担感の大きさ、負担感・不安の内容 ・心配ごと等の克服方法、欲しかった・欲しいサポート ・後輩ママ・パパへのエール

【実施結果】

◇ 子育ての大変さの度合い

- － 子どもが単胎の場合は、「退院直後」「寝返りや離乳食を始めたころ」「歩き始めたころ」「3歳のころ」のいずれの時期についても、「とても大変」「やや大変」の割合は、出生時体重の違いによる特段の違いは見出しがたい。
- － 子どもが多胎の場合は、単胎の場合と比べ、「とても大変」「やや大変」の割合が格段に大きい。特に、「退院直後のころ」には、60%を超える回答者が「とても大変」と回答しており、その後、子どもが成長するにつれ、「とても大変」の割合は小さくなる。多胎児の場合は特に、早期に産後ケア施設や相談窓口、自治体の支援内容等を紹介し、退院直後から支援につなげられるようにすることが、重要であると考えられる。

図 多胎/単胎別 出生体重別 時期別の子育ての大変さ度合いの分布(%)



◇ 「回答者自身」に関する大変さ・心配の具体的な内容

- － 子どもが単胎の場合は、子どもが成長するにつれ、「なんとなく不安だった」との回答割合は小さくなる。出生時体重の違いによる傾向の違いはあまりみられない。
- － これに対し、子どもが多胎の場合は、単胎の場合よりも体や心の疲れ、孤独感、不安感などが大きい。加えて、子どもが成長するにつれ、「なんとなく不安だった」「なんとなく孤独だった」との回答が増える。「外出することが大変だった」との回答の多さとも考え合わせると、多胎児の親は孤立しやすいものと考えられる。

図 多胎/単胎別 出生体重別 時期別の「回答者自身」に関する大変さ・心配の内容

単胎/ 多胎	出生時 体重	時期	回答 件数	回答割合（回答者自身に関する大変さ・心配）							
				育児による 体の疲れ	育児によるこ ころの疲れ	なんとなく孤 独だった	なんとなく不 安だった	なんとなく子 どもを育てに くいと書いた	子どもたち に対する気持ち になんとなく差 があるように 感じた	その他	特に大変さ や心配なこと はなかった
単胎	1999g 以下	退院直後のころ	24	62.5%	29.2%	8.3%	45.8%	0.0%		12.5%	20.8%
		寝返りや離乳食を始めたころ	21	52.4%	23.8%	14.3%	33.3%	0.0%		0.0%	38.1%
		歩き始めたころ	20	50.0%	30.0%	0.0%	5.0%	0.0%		5.0%	40.0%
		3歳のころ	11	63.6%	45.5%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	18.2%
	2000- 2499g	退院直後のころ	87	59.8%	32.2%	10.3%	39.1%	2.3%		13.8%	14.9%
		寝返りや離乳食を始めたころ	67	50.7%	23.9%	7.5%	14.9%	3.0%		7.5%	32.8%
		歩き始めたころ	59	50.8%	22.0%	8.5%	8.5%	5.1%		5.1%	27.1%
		3歳のころ	24	37.5%	16.7%	0.0%	4.2%	8.3%		16.7%	37.5%
	2500g 以上	退院直後のころ	932	64.2%	30.4%	11.1%	31.0%	3.4%		13.7%	20.2%
		寝返りや離乳食を始めたころ	659	47.5%	22.9%	11.2%	18.1%	2.9%		7.7%	32.5%
		歩き始めたころ	584	44.3%	24.0%	8.6%	11.8%	2.4%		6.5%	39.6%
		3歳のころ	264	44.7%	31.1%	5.3%	9.5%	6.4%		10.2%	34.1%
多胎		退院直後のころ	19	68.4%	36.8%	21.1%	31.6%	10.5%	5.3%	21.1%	5.3%
		寝返りや離乳食を始めたころ	13	76.9%	53.8%	30.8%	38.5%	0.0%	0.0%	7.7%	23.1%
		歩き始めたころ	10	70.0%	40.0%	40.0%	50.0%	10.0%	0.0%	10.0%	10.0%
		3歳のころ	5	80.0%	60.0%	40.0%	40.0%	20.0%	20.0%	60.0%	0.0%

◇ 「子ども」に関する大変さ・心配の具体的な内容

- － 子どもが単胎の場合は、特に出生時体重が少ないほど、退院直後における発育や発達に関する心配が大きい。一方、このような心配は、子供の成長につれ、低減してゆく傾向がみられる。

図 多胎/単胎別 出生体重別 時期別の「子ども」に関する大変さ・心配の内容

単胎/ 多胎	出生時 体重	時期	回答 件数	回答割合（子どもに関する大変さ・心配）									
				体重の増え かたが順調 か心配だっ た	順調に発達 するか心配 だった	発達が順調 か心配だっ た	離乳食をな かなか食べ ないことが心 配だった	夜泣きなど、泣くこと が多いことが 心配だった	子どもたちの 間の体重の 増えかたや発 達の違いが 心配だった	子ども同士 の力関係に ついて悩ん だ	その他、子 どもについて 心配があっ た	子どもにつ いて、特に心配 なことはな かった	
単胎	1999g 以下	退院直後のころ	24	66.7%	87.5%							12.5%	8.3%
		寝返りや離乳食を始めたころ	21	42.9%		52.4%	23.8%	19.0%			9.5%	19.0%	
		歩き始めたころ	20	20.0%		55.0%		15.0%			5.0%	25.0%	
		3歳のころ	11	18.2%		36.4%					9.1%	45.5%	
	2000- 2499g	退院直後のころ	87	49.4%	31.0%							14.9%	31.0%
		寝返りや離乳食を始めたころ	67	23.9%		16.4%	11.9%	22.4%			4.5%	40.3%	
		歩き始めたころ	59	18.6%		28.8%		18.6%			3.4%	44.1%	
		3歳のころ	24	8.3%		16.7%					12.5%	58.3%	
	2500g 以上	退院直後のころ	932	31.5%	32.4%							9.2%	41.0%
		寝返りや離乳食を始めたころ	659	16.8%		11.8%	15.6%	17.6%			6.5%	45.8%	
		歩き始めたころ	584	10.1%		21.9%		12.5%			8.0%	50.9%	
		3歳のころ	264	4.9%		14.8%					14.4%	56.8%	
多胎	退院直後のころ	19	52.6%	42.1%				21.1%		15.8%	10.5%		
	寝返りや離乳食を始めたころ	13	46.2%		30.8%	23.1%	53.8%	15.4%		15.4%	15.4%		
	歩き始めたころ	10	10.0%		30.0%		50.0%	20.0%		0.0%	10.0%		
	3歳のころ	5	40.0%		40.0%			0.0%	80.0%	20.0%	20.0%		

◇ 「子育て」に関する大変さ・心配の具体的内容

一 子どもが多胎である方が、単胎である場合よりも、心配や大変さなどが大きい。また、特に「外出することが大変だった」との回答がきわめて多い。単胎の中で、出生時体重の違いによる傾向の違いはあまりみられない。

図 多胎/単胎別 出生体重別 時期別の「子育て」に関する大変さ・心配の内容

単胎/ 多胎	出生時 体重	時期	回答 件数	回答割合（子育てに関する大変さ・心配）						
				子どもの世話 の仕方が、こ れでいいか心 配だった	いつ離乳食 をはじめると 良いかわか らなかった	授乳の方法 やタイミン グに悩んだ	お風呂の入 れ方やタイ ミングに悩ん だ	同時泣きへ の対応に 困った	食が細い、 好き嫌いが 激しい等に 悩んだ	友達と遊ぶ ことが苦手 なことに悩ん だ
単胎	1999g 以下	退院直後のころ	24	45.8%						
		寝返りや離乳食を始めたころ	21	23.8%	9.5%					
		歩き始めたころ	20					25.0%		
		3歳のころ	11					36.4%	9.1%	
	2000- 2499g	退院直後のころ	87	48.3%						
		寝返りや離乳食を始めたころ	67	19.4%	7.5%					
		歩き始めたころ	59					18.6%		
		3歳のころ	24					25.0%	4.2%	
	2500g 以上	退院直後のころ	932	41.8%						
		寝返りや離乳食を始めたころ	659	19.6%	7.7%					
		歩き始めたころ	584					16.4%		
		3歳のころ	264					21.6%	6.1%	
多胎	退院直後のころ	19	31.6%		52.6%	31.6%	63.2%			
	寝返りや離乳食を始めたころ	13	38.5%	23.1%	46.2%	46.2%				
	歩き始めたころ	10						40.0%		
	3歳のころ	5	80.0%						40.0%	

単胎/ 多胎	出生時 体重	時期	回答 件数	回答割合（子育てに関する大変さ・心配）							
				トイレレー ニングが順調に 進まず、悩ん だ（※）	しつけがこれ でいいのか悩 んだ	動き回るた め目が離せ なかった（*）	家族が子育 てに協力的 ではなかった	きょうだいの世 話が十分にで きなかった	外出すること が大変だった	その他、子育 てについて心 配なことがあ った	子育てについ て、特に心配 なことはなかつ た
単胎	1999g 以下	退院直後のころ	24				0.0%	8.3%		20.8%	33.3%
		寝返りや離乳食を始めたころ	21				0.0%	9.5%		14.3%	42.9%
		歩き始めたころ	20		30.0%	70.0%	0.0%	10.0%		10.0%	10.0%
		3歳のころ	11	63.6%	45.5%	27.3%	0.0%	27.3%		9.1%	9.1%
	2000- 2499g	退院直後のころ	87				3.4%	16.1%		3.4%	31.0%
		寝返りや離乳食を始めたころ	67				9.0%	10.4%		4.5%	50.7%
		歩き始めたころ	59		28.8%	44.1%	6.8%	13.6%		5.1%	33.9%
		3歳のころ	24	25.0%	33.3%	25.0%	4.2%	8.3%		0.0%	33.3%
	2500g 以上	退院直後のころ	932				4.3%	22.9%		3.9%	30.6%
		寝返りや離乳食を始めたころ	659				4.6%	17.3%		5.9%	44.9%
		歩き始めたころ	584		26.0%	44.0%	4.3%	13.4%		3.8%	30.0%
		3歳のころ	264	28.0%	41.3%	23.9%	5.7%	17.8%		4.2%	21.6%
多胎		退院直後のころ	19				10.5%	10.5%	63.2%	15.8%	0.0%
		寝返りや離乳食を始めたころ	13				15.4%	15.4%	76.9%	15.4%	7.7%
		歩き始めたころ	10		40.0%	80.0%	30.0%	20.0%	70.0%	10.0%	0.0%
		3歳のころ	5	80.0%	60.0%	60.0%	0.0%	40.0%	60.0%	20.0%	0.0%

※…多胎については、「トイレトレーニングについて、子どもたちの間で同じように進まず、悩んだ」

*…多胎については、「子どもたちが別々に動くので目が離せなかった」

◇ 自由記載に見る保護者が抱える困難・心配

【単胎の保護者の場合】

－ 単胎の保護者のうち、特に 2000～2500g 未満児の保護者からは、次のような回答が寄せられた。

大変だったこと・心配 だったこと	・他の子どもと無意識に比べてしまい、罪悪感を抱く 等
大変さの乗り切り方	・家族、保健師、友人、医療機関関係者への相談 ・インターネットでの情報収集 ・SNS での同じ状況の親との交流
欲しかったサポート・ 欲しいサポート	・同じ状況でうまれた子どもについての最新の情報、体験談 ・同じ状況の保護者との交流 ・子どもの一時預かりサービス ・金銭的支援 ・相談窓口 ・訪問型の支援 等

【多胎児の保護者の場合】

－ 多胎児の保護者ならではの悩み等として、次のような回答が寄せられた。

大変だったこと・心配 だったこと	【妊娠中】 ・無事に出産できるか ・妊娠期の疾患 ・寝たきりによる体力低下 等 【退院直後】 ・家族の協力が不足している ・参考にできる人が少ない 等 【3歳の頃】 ・きょうだいと平等に接することができているかどうか 等 【その他】 ・育児用品のイメージができない、サポートが少ない 等
大変さの乗り切り方	・家族、友人への相談、ネットでの情報収集 等
欲しかったサポート・ 欲しいサポート	・出産前に多胎育児の情報 ・子どもの一時預かりサービス ・同じ状況の保護者との交流 ・育児グッズに関する支援 ・買い物児の支援 等

自治体等インタビュー調査

低出生体重児や多胎児の子育て支援や母子保健に係る取組の好事例を収集するため、訪問によるインタビュー調査を実施した。

調査年月	2019（平成31）年2月～3月
調査対象・方法	5件（3市1区1団体）
調査項目	自治体概要（人口、年間出生数等）、低出生体重児・多胎児に対する支援施策、施策の効果・今後の展望 等

【調査結果からわかったこと】

◇ 事業を成り立たせることができる規模

- －低出生体重児・多胎児ともに、出生数全体からすると、10%を下回る状況にある。そのため、一定数の規模の自治体でないと、低出生体重児・多胎児ともに、仲間づくりや集い等の事業を開催しても、人が集まらないこともある。保護者の中には事業の存在を知らない人もいるので、出産ができる医療機関等を通じて事業案内をしてもらう等の工夫も必要ではないかと考えられる。
- －事業実施回数としても、低出生体重児・多胎児ともに多くの自治体で年1回の集まり等に限定されるものも多いが、体調不良等で機会を逸してしまった際には参加が難しくなる。
- －兵庫県神戸市のような大規模自治体では、概ね区の単位で開催される双子の集いには、区をまたいで参加することも可能であるため、双子同士での集まりに複数回参加する機会も得られるが、そうでない場合には、保健所等が広域的な活動を通じて、複数自治体での共同実施等も検討することも必要ではないかと考えられる。

◇ 集いの場以外での支援の必要性

- －集いの場は、低出生体重児や多胎児ならではの悩みごとを話す機会になるが、生まれたてで生活リズムがつかめない保護者にとっては、集いの場に参加すること自体、ハードルの高いことでもあるようである。
- －そのため、当事者同士が集まる機会以外にも、当事者の悩みをできるだけ拾い上げることでできる機会を設けていくことが重要である。

啓発資料の作成

既存の啓発資料、既存の啓発資料以降に出された文献、本事業で行った調査結果の知見等をもとに、①低出生体重児のいる家庭に関する保健師向け支援マニュアル、②多胎児のいる家庭に関する保健師向けマニュアル、③多胎児の保護者向けのリーフレットを作成した。

【①低出生体重児のいる家庭に関する保健師向け支援マニュアルの概要】

✧ 主な利用者と作成方法

ー主に低出生体重児のいる家庭の支援に当たる自治体の保健師を対象として「低出生体重児保健指導マニュアル」を作成した。

※本マニュアルは平成24年度厚生労働省科学研究による「低出生体重児保健指導マニュアル」を改訂したものであり、改訂に当たってはこれまであまり焦点があてられてこなかった出生体重児2000～2499gの子どもとその保護者についても記述した。

目次構成

はじめに	第2章 低出生体重児の家族への支援
第1章 低出生体重児への支援に必要な基本的なこと	1. 病院で行われている赤ちゃん・家族への配慮
1. 低出生体重児について	2. 低出生体重児を出産した母親の心理
2. 低出生体重児の背景要因	3. 入院中からの保健師による支援の必要性
3. 低出生体重児の発育	4. 家族アセスメント
4. 低出生体重児の発達	5. 家庭訪問を中心とした支援
5. 低出生体重児2000以上2500g未満児の特徴	第3章 低出生体重児への支援に必要な基本的なこと
6. 新生児に必要な医療～極低出生体重児を中心に～	1. 広域医療機関と市区町村の連携
7. 未熟（児）網膜症（Retinopathy Of Prematurity, ROP）	2. 地域医療機関（かかりつけ医）との連携支援
	よくあるお母さん・お父さんからのQ&A
	参考：略語集

【②多胎児のいる家庭に関する保健師向け支援マニュアルの概要】

✧ 主な利用者と作成方法

ー主に多胎児のいる家庭の支援に当たる自治体の保健師を対象として「多胎児支援のポイント」を作成した。

※本マニュアルは平成24年度厚生労働省科学研究による「低出生体重児保健指導マニュアル」を改訂する際、近年支援ニーズが高まっている多胎児への支援に当たって特に必要となる基礎知識や支援のポイントを抜き出して整理し、マニュアルとして取りまとめた。

目次構成

はじめに	3. 父親・パートナーに向けた支援
第1章 多胎児への支援に必要な基本的なこと	4. 地域の医療機関との連携
1. 多胎の妊娠・出産の状況	5. 多職種連携による支援
2. 多胎妊娠の母児における医学的なリスク	第3章 具体的な支援策
3. 多胎児の発達・発育	1. 育児負担軽減のための支援
4. 多胎妊娠の経過	2. 孤立予防・仲間づくりに関する支援
第2章 多胎児の家族への支援のポイント	3. 経済的な支援
1. 妊娠中からの継続的な関与	よくあるお母さん・お父さんからのQ&A
2. 育児環境のアセスメント	参考資料 ふたご・みつごを育てるあなたへ

【③多胎児の保護者向けのリーフレットの概要】

✧ 主な利用者と作成方法

ー多胎児の保護者向けに「ふたご、みつごを育てるあなたへ」を作成した。

※本リーフレットでは保護者 web アンケート（子育てに関する保護者アンケート調査）の結果等を踏まえ、妊娠中から子育て期に至る見通しやよくある疑問・ヒントをすごろく形式でまとめた。裏表紙には各自治体で編集可能な、相談窓口の記載欄を設けた。

【実施体制】（敬称略、○は座長）

上野 昌江	大阪府立大学大学院 看護学研究科 教授
江原 伯陽	特定非営利活動法人新生児臨床研究ネットワーク
尾中 志津香	葛飾赤十字産院 NICU 助産師
木内 恵美	東京都文京区保健サービスセンター 所長補佐
○ 佐藤 拓代	大阪府立病院機構大阪母子医療センター 母子保健情報センター 顧問
鈴鹿 隆久	日本小児科医会 代議員
谷垣 伸治	杏林大学医学部産科婦人科 教授／ 総合周産期母子医療センター センター長
布施 晴美	十文字学園女子大学 教授／ 一般社団法人 日本多胎支援協会 代表理事

【事務局】

みずほ情報総研株式会社 社会政策コンサルティング部

目次

第1章 調査研究事業の目的と方法	1
1. 調査研究事業の背景・目的	1
2. 事業実施内容	2
3. 事業実施体制	3
4. 成果の公表方法	3
第2章 保護者 web アンケート	4
1. 調査概要	4
2. 主な調査結果	5
3. アンケート調査結果からの示唆	18
第3章 自治体等インタビュー調査	19
1. 調査概要	19
2. 取組事例	21
第4章 啓発資材の作成	30
1. 調査概要	30
2. 啓発資材の作成	32
3. 啓発資材の改善と低出生体重児・多胎児への支援に向けた課題	33

成果物

- ・低出生体重児保健指導マニュアル
- ・多胎児支援のポイント
- ・ふたご、みつごを育てるあなたへ

参考資料

- ・保護者 web アンケート調査票

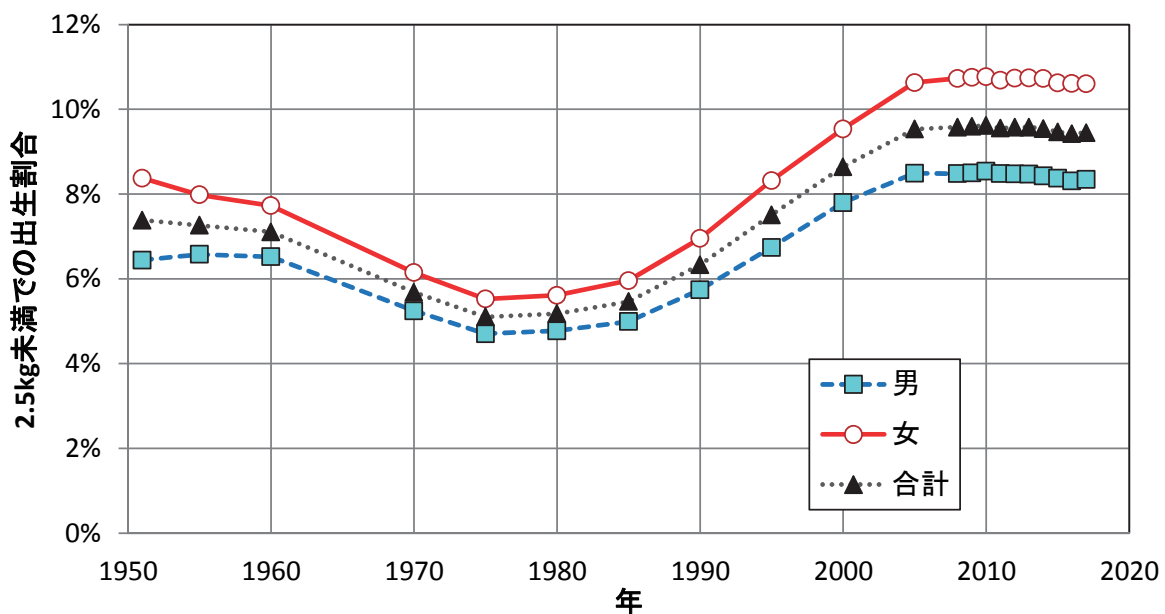
第 1 章 調査研究事業の目的と方法

1. 調査研究事業の背景・目的

1) 調査研究事業の背景

日本において、出生時体重が 2500g 未満の低出生体重児の割合は、2005 年頃より 9%台中盤で横ばいが続いている。この割合は、単胎児（2017 年：8.17%）に比べて多胎児（2017 年：71.65%）では格段に大きくなる。

図表 1 全出生数（体重不詳除く）に占める出生体重 2500g 未満の出生の割合の推移



人口動態統計による。

図表 2 全出生数（体重不詳除く）に占める出生体重 2.5kg 未満の出生の割合（2017 年）

出生体重	総数	単産	複産
1.0kg未満	0.28%	0.24%	2.46%
1.0～1.5kg	0.45%	0.34%	5.51%
1.5～2.0kg	1.19%	0.88%	16.70%
2.0～2.5kg	7.52%	6.71%	46.98%
合計	9.45%	8.17%	71.65%

人口動態統計による。単位表示は同統計の表記に合わせ、kg 単位としている。

低出生体重児は、出生後にも医療的ケアが必要となるケースが通常と比べると多く、また発育・発達の遅延や障害、成人後も含めた健康に係るリスクが大きいことが指摘されている。

そのため家族は、出生直後、退院後、乳児期、幼児期、学齢期といったライフステージごとに、健康や障害、発育・発達、学習など、様々な不安を持ったり、育児上の困難を抱えたりしやすい。加えて多胎児の場合は、子どもの数の多さに伴う育児上・生活上の困難も生じやすくなる。ゆえに、通常にもまして個々の状況に応じた、また多くの支援が必要となりやすい。

これを踏まえ、

2) 調査研究事業の目的

上記を踏まえ、本事業は、低出生体重児、多胎児およびそれ以外の赤ちゃんの親へのアンケート調査を通じて、子供の健康・発育・発達に係る不安や支援ニーズ、生活状況等の実態を把握し、相互比較するとともに、インタビュー調査等を通じて自治体等が低出生体重児や多胎児の家族に対して行う母子保健等の支援の好事例を収集し、その知見をもとに、母子保健事業で活用できる啓発資料を作成することを目的として実施した。

2. 事業実施内容

1) 市区町村アンケート

保護者 web アンケートに関する協力自治体の確保や、インタビュー調査の対象とする自治体の取組情報の収集を目的として、全国の市区町村を対象としたアンケート調査を実施した。調査結果は保護者 web アンケート、自治体等インタビュー調査の実施に活用した。

2) 保護者 web アンケート

低出生体重児や多胎児の保護者の抱える大変さや悩み、支援ニーズを把握し、保護者を対象とした web アンケート調査を行った。調査結果は啓発資料の作成に活用した。

3) 自治体等インタビュー調査

低出生体重児や多胎児の子育て支援や母子保健に係る取組の好事例を収集するため、市区町村アンケートの結果及び公表資料、検討会委員のご意見を踏まえて3市1区1団体を選定し、訪問によるインタビュー調査を実施した。調査結果は啓発資料の作成に活用した。

4) 啓発資料の作成

既存の啓発資料、既存の啓発資料以降に出された文献、本事業で行った調査結果の知見等とともに、低出生体重児のいる家庭に関する保健師向け支援マニュアル、多胎児のいる家庭に関する保健師向けマニュアル、多胎児の保護者向けのリーフレットを作成した。

3. 事業実施体制

調査の設計・実施・とりまとめに当たり、有識者等からなる研究会を設置し、指導・助言を得た。

図表 3 研究会 委員名簿

上野 昌江	大阪府立大学大学院 看護学研究科 教授
江原 伯陽	特定非営利活動法人新生児臨床研究ネットワーク
尾中 志津香	葛飾赤十字産院 NICU 助産師
木内 恵美	東京都文京区保健サービスセンター 所長補佐
○ 佐藤 拓代	大阪府立病院機構大阪母子医療センター 母子保健情報センター 顧問
鈴鹿 隆久	日本小児科医会 代議員
谷垣 伸治	杏林大学医学部産科婦人科 教授／総合周産期母子医療センター センター長
布施 晴美	十文字学園女子大学 教授／一般社団法人 日本多胎支援協会 代表理事

(○：座長 50 音順・敬称略)

研究会は、計 3 回開催した。開催概要は下表のとおり。

図表 4 研究会の開催概要

研究会	開催日時	議題
第 1 回	2018 年 10 月 19 日 17 時～19 時	○ 事業実施方針 ○ アンケート調査票・調査方法 ○ ヒアリング調査の内容・実施方法 ○ 啓発資材の作成方針
第 2 回	2018 年 2 月 26 日 19 時～21 時	○ アンケート調査結果 ○ ヒアリング調査結果 ○ 啓発資材の構成案
第 3 回	2018 年 3 月 19 日 18 時 30 分～20 時 30 分	○ 啓発資材 ○ 調査研究報告書の作成

4. 成果の公表方法

本調査研究の成果は、みずほ情報総研株式会社のホームページにおいて公開する。

(<https://www.mizuho-ir.co.jp/index.html>)

第2章 保護者 web アンケート

1. 調査概要

1) 目的

低出生体重児や多胎児の保護者の抱える大変さや悩み、支援ニーズを把握し、啓発資料の作成等にあたっての参考とすることを目的として、保護者を対象とした Web アンケートを実施した。

2) 調査方法と調査対象の選定

本調査は、スマートフォンやパソコンを通じて回答頂く、Web アンケート調査の方法をとった。

事前に、自治体ヒアリング調査の予備調査として行った全国の市区町村を対象として行った Web アンケート調査の中で、保護者アンケート調査の依頼状の配布に協力頂ける自治体（以下、協力自治体）を募集した。

2019 年 1 月に、協力自治体（全国 91 市区町村）を通じて、集団方式の乳幼児健診（3～5 か月児健診、1 歳 6 か月児健診、3 歳児健診）を受診した子どもの保護者に、回答用サイトの URL や回答方法を記載した「保護者アンケート依頼状」を配布した（配布件数：計 13,707 件以上）。

3) 調査項目

調査は「単胎用」と「多胎用」の 2 種類を用意した。

単胎用と多胎用は、途中の設問（問 5）に単胎/多胎のいずれであるかを問う設問を設け、その回答内容に応じて質問内容を自動分岐させた（単胎を選択すると、以降は単胎用の設問に移る方式）。

図表 5 調査項目

調査種類	主な設問内容
共通	・居住市区町村、保護者の年齢、子どもとの続柄 ・単胎/多胎、受けた健診の種類、きょうだいの有無、出産時の妊娠週数、出生児体重 ・日中の過ごし場所、定期的受診の有無、医療的ケアの必要性
単胎用	・切迫早産での入院の有無 ・子どもの成長過程別の子育ての負担感の大きさ、負担感・不安の内容 ・心配ごと等の克服方法、欲しかった・欲しいサポート
多胎用	・出産前の入院週数、妊娠中に心配だったこと ・多胎児用の育児用品の準備、困ったこと ・子どもの成長過程別の子育ての負担感の大きさ、負担感・不安の内容 ・心配ごと等の克服方法、欲しかった・欲しいサポート ・後輩ママ・パパへのエール

4) 回収状況

単胎：1142 件（うち出生児体重 2500g 未満は 111 件）、多胎：19 件

2. 主な調査結果

1) 回答者の属性

【保護者の年齢】

回答者年齢	回答件数		割合	
	単胎	多胎	単胎	多胎
合計	1,142	19	100.0%	100.0%
～19 歳	3	0	0.3%	0.0%
20～24 歳	32	0	2.8%	0.0%
25～29 歳	192	1	16.8%	5.3%
30～34 歳	427	10	37.4%	52.6%
35～39 歳	342	8	29.9%	42.1%
40～44 歳	130	0	11.4%	0.0%
45 歳～	13	0	1.1%	0.0%
無回答	3	0	0.3%	0.0%

【保護者の続柄】

続柄	回答件数		割合	
	単胎	多胎	単胎	多胎
合計	1,142	19	100.0%	100.0%
母親	1,123	18	98.3%	94.7%
父親	15	1	1.3%	5.3%
その他	0	0	0.0%	0.0%
無回答	4	0	0.4%	0.0%

2) 子どもの属性

【受けた健診】

受けた健診	回答件数					割合				
	単胎 (出生児体重 無回答含む)	出生時体重			多胎	単胎 (出生児体重 無回答含む)	出生時体重			多胎
		1999g以下	2000-2499g	2500g以上			1999g以下	2000-2499g	2500g以上	
合計	1,142	24	87	932	19	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
3～5か月児健康診査	376	3	25	324	5	32.9%	12.5%	28.7%	34.8%	26.3%
1歳6か月児健康診査	391	10	33	310	6	34.2%	41.7%	37.9%	33.3%	31.6%
3歳児健康診査	272	7	19	220	5	23.8%	29.2%	21.8%	23.6%	26.3%
その他	94	4	10	72	3	8.2%	16.7%	11.5%	7.7%	15.8%
無回答	9	0	0	6	0	0.8%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%

【きょうだいの有無】

きょうだいの有無	回答件数					割合				
	単胎 (出生児体重 無回答含む)	出生時体重			多胎	単胎 (出生児体重 無回答含む)	出生時体重			多胎
		1999g以下	2000-2499g	2500g以上			1999g以下	2000-2499g	2500g以上	
合計	1,142	24	87	932	19	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
兄・姉がいる	408	7	30	369	6	35.7%	29.2%	34.5%	39.6%	31.6%
弟・妹がいる	117	3	6	108	1	10.2%	12.5%	6.9%	11.6%	5.3%
いない	540	14	52	474	7	47.3%	58.3%	59.8%	50.9%	36.8%
無回答	98	0	0	1	5	8.6%	0.0%	0.0%	0.1%	26.3%

【切迫早産での入院経験】（単胎のみ）

切迫早産での入院経験	回答件数				割合			
	単胎 (出生児体重 無回答含む)	出生時体重			単胎 (出生児体重 無回答含む)	出生時体重		
		1999g以下	2000-2499g	2500g以上		1999g以下	2000-2499g	2500g以上
合計	1,142	24	87	932	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
ある	75	11	16	48	6.6%	45.8%	18.4%	5.2%
ない	968	13	71	882	84.8%	54.2%	81.6%	94.6%
無回答	99	0	0	2	8.7%	0.0%	0.0%	0.2%

- 出生児の体重が小さいケースほど、切迫早産での入院経験率が高い。

【出生時の在胎週数】

出産時の在胎週数	回答件数				
	単胎 (出生児体重 無回答含む)	出生時体重			多胎
		1999g以下	2000-2499g	2500g以上	
回答件数	1,031	24	87	919	14
平均週数	38.7	32.7	37.4	39.0	36.2

- 出生児の体重が小さいケースほど、出生時の在胎週数が短い。

【子どもが日中過ごす主な場所】

子どもが日中過ごす主な場所	回答件数					割合				
	単胎 (出生児体重 無回答含む)	出生時体重			多胎	単胎 (出生児体重 無回答含む)	出生時体重			多胎
		1999g以下	2000-2499g	2500g以上			1999g以下	2000-2499g	2500g以上	
合計	1,142	24	87	932	19	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
自宅	744	19	60	665	12	65.1%	79.2%	69.0%	71.4%	63.2%
保育園・幼稚園など	288	5	25	256	2	25.2%	20.8%	28.7%	27.5%	10.5%
その他	10	0	2	8	0	0.9%	0.0%	2.3%	0.9%	0.0%
無回答	100	0	0	3	5	8.8%	0.0%	0.0%	0.3%	26.3%

【定期的な受診や日常的な医療的ケアの状況】

病気や発育・発達の経過観察のための定期的な受診状況	回答件数					割合				
	単胎 (出生児体重 無回答含む)	出生時体重			多胎	単胎 (出生児体重 無回答含む)	出生時体重			多胎
		1999g以下	2000-2499g	2500g以上			1999g以下	2000-2499g	2500g以上	
合計	1,142	24	87	932	19	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
定期的に通っている	217	17	20	179	6	19.0%	70.8%	23.0%	19.2%	31.6%
うち日常的な医療的ケアの必要あり	4	1	1	2	0	0.4%	4.2%	1.1%	0.2%	0.0%
定期的には通っていない	827	7	67	752	8	72.4%	29.2%	77.0%	80.7%	42.1%
無回答	98	0	0	1	5	8.6%	0.0%	0.0%	0.1%	26.3%

- 出生時体重が1999g以下の単胎児の場合、「病気や経過観察のために医療機関に定期的に通っている」との回答割合が格段に大きくなる。一方で、日常的な医療的ケアを必要とする子どもについてみると、より大きく生まれた子どもよりは割合が大きいものの、4.2%である。

3) 多胎に関する集計

【出産前の入院週数】（多胎のみ）

回答件数	平均値	中央値
14	5.1 週	2.0 週

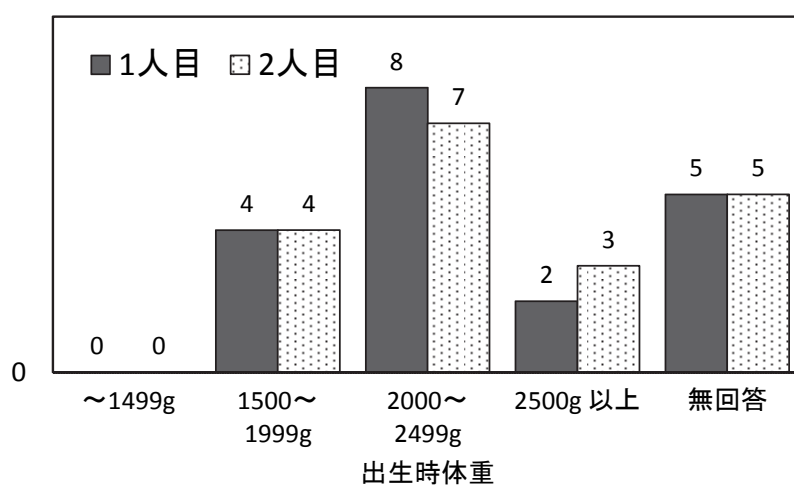
【多胎児用の育児用品を準備した時期】（多胎のみ）

回答件数	平均値	中央値
14	妊娠 6.2 か月	妊娠 6.0 か月

【多胎児用の育児用品を準備するにあたり困ったこと】（複数回答）（多胎のみ）

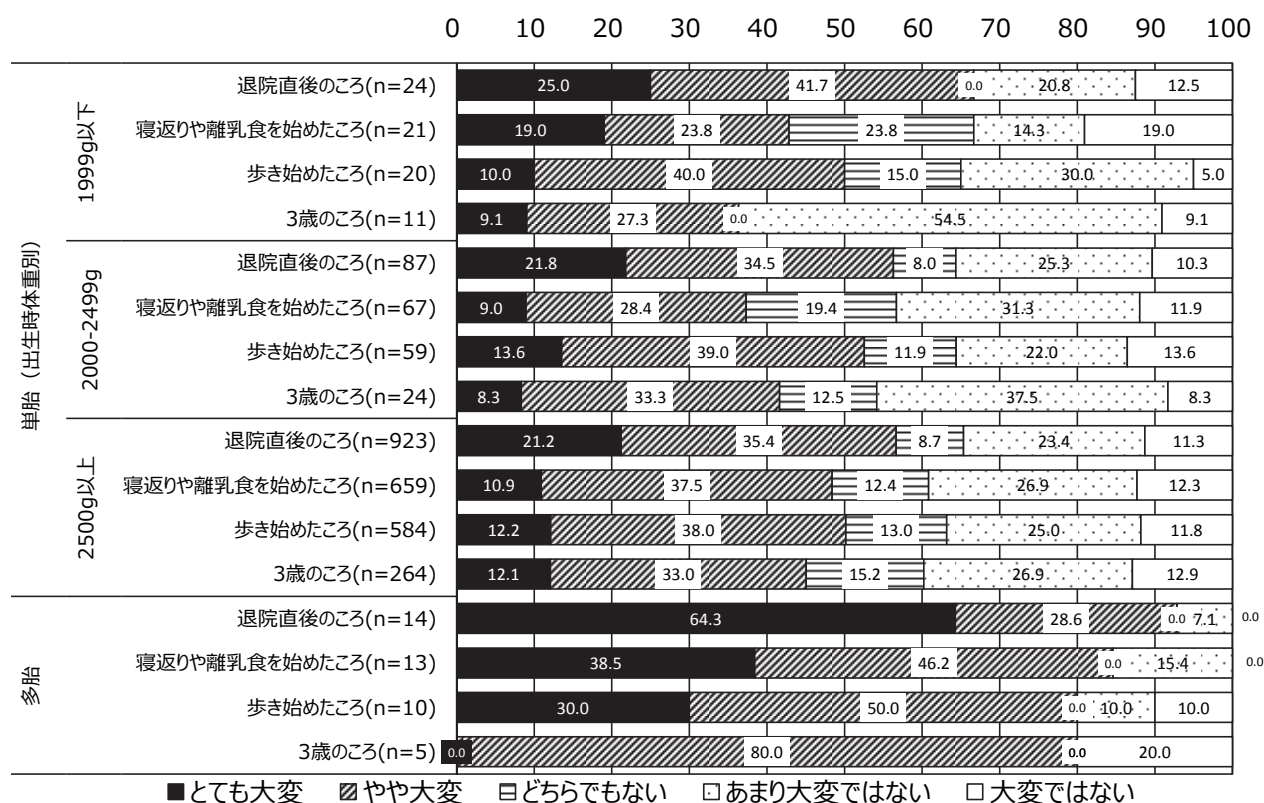
困ったこと	回答件数	%
情報が少ない	10	52.6
身近な場所で手に入りにくい	9	47.4
費用がかかる	13	68.4
その他	3	15.8
無回答	5	26.3
全体	19	100.0

【多胎児の出生児体重】（多胎のみ）



4) 子育ての大変さの度合い・内容

【大変さの度合い】



- 子どもが単胎の場合は、「退院直後」「寝返りや離乳食を始めたころ」「歩き始めたころ」「3歳のころ」のいずれの時期についても、「とても大変」「やや大変」の割合は、出生時体重によらずほぼ同水準である。
- 子どもが多胎の場合は、単胎の場合と比べ、「とても大変」「やや大変」の割合が格段に大きい。特に、「退院直後のころ」には、60%を超える回答者が「とても大変」と回答しており、その後、子どもが成長するにつれ、「とても大変」の割合は小さくなる。多胎児の場合は特に、早期に産後ケア施設や相談窓口、自治体の支援内容等を紹介し、退院直後から支援につなげられるようにすることが、重要であると考えられる。

【回答者自身に関する大変さ・心配】

単胎/ 多胎	出生時 体重	時期	回答 件数	回答割合（回答者自身に関する大変さ・心配）							
				育児による 体の疲れ	育児によるこ ころの疲れ	なんとなく孤 独だった	なんとなく不 安だった	なんとなく子 どもを育てに くいとあった	子どもたちに 対する気持ち になんとか差 があるように 感じた	その他	特に大変さ や心配なこと はなかった
単胎	1999g 以下	退院直後のころ	24	62.5%	29.2%	8.3%	45.8%	0.0%		12.5%	20.8%
		寝返りや離乳食を始めたころ	21	52.4%	23.8%	14.3%	33.3%	0.0%		0.0%	38.1%
		歩き始めたころ	20	50.0%	30.0%	0.0%	5.0%	0.0%		5.0%	40.0%
		3歳のころ	11	63.6%	45.5%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	18.2%
	2000- 2499g	退院直後のころ	87	59.8%	32.2%	10.3%	39.1%	2.3%		13.8%	14.9%
		寝返りや離乳食を始めたころ	67	50.7%	23.9%	7.5%	14.9%	3.0%		7.5%	32.8%
		歩き始めたころ	59	50.8%	22.0%	8.5%	8.5%	5.1%		5.1%	27.1%
		3歳のころ	24	37.5%	16.7%	0.0%	4.2%	8.3%		16.7%	37.5%
	2500g 以上	退院直後のころ	932	64.2%	30.4%	11.1%	31.0%	3.4%		13.7%	20.2%
		寝返りや離乳食を始めたころ	659	47.5%	22.9%	11.2%	18.1%	2.9%		7.7%	32.5%
		歩き始めたころ	584	44.3%	24.0%	8.6%	11.8%	2.4%		6.5%	39.6%
		3歳のころ	264	44.7%	31.1%	5.3%	9.5%	6.4%		10.2%	34.1%
多胎		退院直後のころ	19	68.4%	36.8%	21.1%	31.6%	10.5%	5.3%	21.1%	5.3%
		寝返りや離乳食を始めたころ	13	76.9%	53.8%	30.8%	38.5%	0.0%	0.0%	7.7%	23.1%
		歩き始めたころ	10	70.0%	40.0%	40.0%	50.0%	10.0%	0.0%	10.0%	10.0%
		3歳のころ	5	80.0%	60.0%	40.0%	40.0%	20.0%	20.0%	60.0%	0.0%

- 子どもが単胎の場合は、子どもが成長するにつれ、「なんとなく不安だった」との回答割合は小さくなる。出生時体重の違いによる傾向の違いはあまりみられない。
- これに対し、子どもが多胎の場合は、単胎の場合よりも体や心の疲れ、孤独感、不安感などが大きい。加えて、子どもが成長するにつれ、「なんとなく不安だった」「なんとなく孤独だった」との回答が増える。「外出することが大変だった」との回答の多さ（p10 参照）とも考え合わせても、多胎児の親は孤立しやすいものと考えられる。

【子どもに関する大変さ・心配】

単胎/ 多胎	出生時 体重	時期	回答 件数	回答割合（子どもに関する大変さ・心配）									
				体重の増え かたが順調 か心配だっ た	順調に発達 するか心配 だった	発達が順調 か心配だっ た	離乳食をな かなか食べ ないことが心 配だった	夜泣きなど、泣くこと が多いことが 心配だった	子どもたちの 間の体重の 増えかたや発 達の違いが 心配だった	子ども同士 の力関係に ついて悩ん だ	その他、子 どもについて 心配があっ た	子どもにつ いて、特に心配 なことはな かった	
単胎	1999g 以下	退院直後のころ	24	66.7%	87.5%							12.5%	8.3%
		寝返りや離乳食を始めたころ	21	42.9%		52.4%	23.8%	19.0%				9.5%	19.0%
		歩き始めたころ	20	20.0%		55.0%		15.0%				5.0%	25.0%
		3歳のころ	11	18.2%		36.4%						9.1%	45.5%
	2000- 2499g	退院直後のころ	87	49.4%	31.0%							14.9%	31.0%
		寝返りや離乳食を始めたころ	67	23.9%		16.4%	11.9%	22.4%				4.5%	40.3%
		歩き始めたころ	59	18.6%		28.8%		18.6%				3.4%	44.1%
		3歳のころ	24	8.3%		16.7%						12.5%	58.3%
	2500g 以上	退院直後のころ	932	31.5%	32.4%							9.2%	41.0%
		寝返りや離乳食を始めたころ	659	16.8%		11.8%	15.6%	17.6%				6.5%	45.8%
		歩き始めたころ	584	10.1%		21.9%		12.5%				8.0%	50.9%
		3歳のころ	264	4.9%		14.8%						14.4%	56.8%
多胎	退院直後のころ	19	52.6%	42.1%				21.1%			15.8%	10.5%	
	寝返りや離乳食を始めたころ	13	46.2%		30.8%	23.1%	53.8%	15.4%			15.4%	15.4%	
	歩き始めたころ	10	10.0%		30.0%		50.0%	20.0%			0.0%	10.0%	
	3歳のころ	5	40.0%		40.0%			0.0%	80.0%		20.0%	20.0%	

- 子どもが単胎の場合は、特に出生時体重が少ないほど、退院直後における発育や発達に関する心配が大きい。一方、このような心配は、子供の成長につれ、低減してゆく傾向がみられる。

【子育てに関する大変さ・心配】

単胎/ 多胎	出生時 体重	時期	回答 件数	回答割合（子育てに関する大変さ・心配）						
				子どもの世話 の仕方が、こ れでいいか心 配だった	いつ離乳食 をはじめる と良いかわか らなかった	授乳の方法 やタイミング に悩んだ	お風呂の 入れ方やタイ ミングに悩ん だ	同時泣き への対応に 困った	食が細い、 好き嫌いが 激しい等に 悩んだ	友達と遊ぶ ことが苦手 なことに悩 んだ
単胎	1999g 以下	退院直後のころ	24	45.8%						
		寝返りや離乳食を始めたころ	21	23.8%	9.5%					
		歩き始めたころ	20						25.0%	
		3歳のころ	11						36.4%	9.1%
	2000- 2499g	退院直後のころ	87	48.3%						
		寝返りや離乳食を始めたころ	67	19.4%	7.5%					
		歩き始めたころ	59						18.6%	
		3歳のころ	24						25.0%	4.2%
	2500g 以上	退院直後のころ	932	41.8%						
		寝返りや離乳食を始めたころ	659	19.6%	7.7%					
		歩き始めたころ	584						16.4%	
		3歳のころ	264						21.6%	6.1%
多胎		退院直後のころ	19	31.6%		52.6%	31.6%	63.2%		
		寝返りや離乳食を始めたころ	13	38.5%	23.1%	46.2%	46.2%			
		歩き始めたころ	10						40.0%	
		3歳のころ	5	80.0%						40.0%

単胎/ 多胎	出生時 体重	時期	回答 件数	回答割合（子育てに関する大変さ・心配）							
				トイレ トレーニングが 順調に進まず、 悩んだ（※）	しつけがこ れでいいのか 悩んだ	動き回 るため目が 離せなかつ た（*）	家族が子育 てに協力的 ではなかつ た	きょうだ いの世話が 十分にでき なかつた	外出する ことが大 変だった	その他、子育 てについて 心配なこ とがあつた	子育てにつ いて、特に 心配なこ とはなかつ た
単胎	1999g 以下	退院直後のころ	24				0.0%	8.3%		20.8%	33.3%
		寝返りや離乳食を始めたころ	21				0.0%	9.5%		14.3%	42.9%
		歩き始めたころ	20		30.0%	70.0%	0.0%	10.0%		10.0%	10.0%
		3歳のころ	11	63.6%	45.5%	27.3%	0.0%	27.3%		9.1%	9.1%
	2000- 2499g	退院直後のころ	87				3.4%	16.1%		3.4%	31.0%
		寝返りや離乳食を始めたころ	67				9.0%	10.4%		4.5%	50.7%
		歩き始めたころ	59		28.8%	44.1%	6.8%	13.6%		5.1%	33.9%
		3歳のころ	24	25.0%	33.3%	25.0%	4.2%	8.3%		0.0%	33.3%
	2500g 以上	退院直後のころ	932				4.3%	22.9%		3.9%	30.6%
		寝返りや離乳食を始めたころ	659				4.6%	17.3%		5.9%	44.9%
		歩き始めたころ	584		26.0%	44.0%	4.3%	13.4%		3.8%	30.0%
		3歳のころ	264	28.0%	41.3%	23.9%	5.7%	17.8%		4.2%	21.6%
多胎		退院直後のころ	19				10.5%	10.5%	63.2%	15.8%	0.0%
		寝返りや離乳食を始めたころ	13				15.4%	15.4%	76.9%	15.4%	7.7%
		歩き始めたころ	10		40.0%	80.0%	30.0%	20.0%	70.0%	10.0%	0.0%
		3歳のころ	5	80.0%	60.0%	60.0%	0.0%	40.0%	60.0%	20.0%	0.0%

※…多胎については、「トイレトレーニングについて、子どもたちの間で同じように進まず、悩んだ」

*…多胎については、「子どもたちが別々に動くので目が離せなかった」

- 子どもが多胎である方が、単胎である場合よりも、心配や大変さなどが大きい。また、特に「外出することが大変だった」との回答がきわめて多い。単胎の中で、出生時体重の違いによる傾向の違いはあまりみられない。

5) 単胎児の低出生体重児の保護者の意見

■ 大変だったこと・心配であったこと

大変だったこと・心配であったこととして、次のような意見が寄せられた。

時期	出生時体重	具体的内容
退院直後	1500g 未満	極低体重出生児だったので、周りに追いつく不安だった／薬を飲む機会が多かったので、副作用に対してはいつも心配していた／兄たちからの感染がないかが常に心配
	1500～2000g	母乳がうまく飲めず大変だった
	2000～2500g	黄疸が落ち着くまで心配だった／母乳の吸いがよわかった／NICUに入院したため経過が不安だった／目に見えない異常がないか不安
		母乳を飲んでくれるか／上の子がいて大変
寝返りの頃	1500g 未満	成長が緩やかだった
	2000～2500g	無意識に他児と比べてしまうことがあり、罪悪感を抱くことがあった
		離乳食の作り方／寝てくれない
歩き始めの頃	1500g 未満	よく転んで頭をぶつけたりしていた
	2000～2500g	歩けない
		仕事と育児の両立／けがが多い／いたずらが多い／後追いが大変だった／便秘気味／上の子に手がかかる／家での接し方がわからないときがあった
3歳の頃		仕事と育児の両立／／三食のご飯よりおやつを欲しがるので心配／よく動き回るので目が離せない時がある／人見知り
	1500～2000g	大泣きする時に呼吸をとめてしまうこと／主に怒った時の関わりや言葉かけが合っているのか心配になる

■ 大変さの乗り切り方

大変さの乗り切り方として、家族、保健師、友人、医療機関関係者への相談、ネットでの情報収集、SNSでの同じ状況の親との交流等が挙げられた。

出生時体重	具体的内容
1500g 未満	・負担軽減のための出費は大目に見ることにした（通勤に電車ではなくタクシーを使ったり、食事を弁当にするなど） ・定期的な診察で、先生や看護師さんに相談した SNS で同じくらいの週数で産まれた子供を持つお母さんたちと交流した ・私の場合は子供を小さく出産したので、産まれたばかりの子供の頑張っている姿を毎日思い出し、一緒に頑張っていこうと約束した事を毎日思い出して乗り切っています ・家族や友人に話をきいてもらう 助けてもらう ・母や助産師さんに相談したり、夫に協力してもらったりした。 ・仕事をしていたので気分転換できた ・インターネットや子育てブログを見て共感する事で自分だけではない事を実感した
1500～2000g	・回りの人に相談する。 保健師さん、担当医に相談する。など ・医療機関や親、ママ友に相談したり、育児書やインターネットで調べたりしました。

出生時体重	具体的内容
	・主人に相談したり、ママ友の話を聞く ・人に話して、悩んでいるのは自分だけでは無いと分かって安心した。
2000～2500g	・インターネットで調べたり、職場で先輩の話を聞いたりした。 ・実家に行って見てもらってる間に寝て体力回復。 ・実母や夫に相談。夫や上の子に手伝ってもらう。 ・夫と子育てを分担した。夜は夫がいるときは積極的にこどもをみてもらった。夫婦で心配ごとやイライラを共有し助け合った。子どもセンターなど、専門家に相談もした。 ・産後 2 ヶ月実家で過ごしたので、実母に話をいつでも聞いてもらえたのが心強かった。私自身も少し小さく産まれたので、同じ経験を持つ実母の話が参考になった。 ・相談できる方に相談をして、よいアドバイスをもらった。誰かと比べるのをやめた。これでいいんだと自信を持つようにした。 ・信頼できる病院の先生や助産師さんに聞いた ・いろんな人に話を聞いてもらったり、予防接種の時に先生に相談したり。 ・保健師に相談し、アドバイスを貰った。夫や実家の母に相談した。 ・上の子が通っている園長先生に相談する。身体的なことについては、必ず医師にも相談する。 ・小児科に定期的に通いながら、保健師さんにも相談をして乗り越えています。 ・市の離乳食教室に行ったり、支援センターに行った。 ・産後ケアセンターの利用 ・割りきる、心療内科の受診 ・出産した病院に尋ねたりネットや子育てアプリを見て ・SNS で同じような境遇の人のアカウントを見る。友達に相談。

■ 欲しかったサポート・欲しいサポート

欲しかったサポート・欲しいサポートとして、同じ状況で生まれた子どもについての最新の情報、体験談、一時預かりサービス、同じ状況の保護者との交流、金銭的支援、相談窓口、訪問型の支援等が挙げられた。

出生時体重	具体的内容
1500g 未満	・未熟児で産まれた子の成長についての情報、インターネットの体験談など読んだが当てはまることが少なかった、保健センターなどどう頼って良いのかわからない ・私は母子家庭なので、保育園の待機が少し長くてもっと早くに情報が欲しかったです。 ・実際の経験談 ・小さい子がいると、なかなか外出できず、相談会などがあっても、行く機会を逃してしまいがちなので、書面などで、わかりやすく情報を提供してくれると助かる。 ・一時保育をもっと気軽に値段も安くしてもらえたら、待機児童でも、親も安らぐ瞬間ができるのに、と思う。 ・地域のネットワーク、正しい子育て情報 ・未熟児の体重グラフの目安がほしい。個人差があるとはわかってはいるが、修正月齢の成長目安などの情報が欲しい。

出生時体重	具体的内容
	・フォローアップの検診の時にもっと相談する時間が欲しい ・病院等の口コミ情報。 ・同じ悩みをもつ親子との交流ができればいいなと思う ・遠方に親戚がいるため、近くにサポートしてくれる人の存在 ・データや資料が古いものが多く参考になるかどうか分からないものが多いように感じる。
1500～2000g	・金銭面での援助があると助かる。 ・どんなサポートがあるのかもわからなかった。 ・自分の状況に合ったサポートを教えてくれるコンシェルジュ的な存在があると嬉しかったです。子どもが退院してしばらくは情報収集もなかなか思うようにできず、また感染症が心配で家にこもりがちでした。 ・地域の子育て支援の情報や小児科や救急病院などの情報。 ・家の中だけに閉じ籠って育児するのでは息が詰まってしまうので、身近なところで、少しの時間でも外に親子連れ出してくれるような情報やサービスがあったらよかったです。 ・未熟児ではないのに体重が少なかった（1838g）ので、検索しても症例が少なく、成長度合いなど何を参考にしたらいいのかわからなかった。 ・母乳と離乳食 ・地域のイベント情報 ・託児サポート
2000～2500g	・子どもと離れて心身を休める時間 ・急な時に小さい月齢でも使える託児などのサービス。 ・新生児に対しての情報がもっと知りたかった。入院中は助産師さん、先生に聞けたが、退院すると、心配事を聞くところがなかった。また、病院でのママさん教室では帝王切開の情報やレクチャーもほとんどなく、オペ後、苦痛すぎて赤ちゃんどころではなかった。。。 ・産院での定期的な健康診断、発達相談など ・保健センターの方が訪問してくださる際、どのようなことをしてくれるのか、前もって詳しく知りたかったです。 ・2人目の出産時は、1人目の子が小さかった(ちょうど2歳)ので、入院の間どうすれば良いか悩んだ。実母も他界しており、頼める人が夫しかいなかった。 ・自分が風邪でしんどかった時に夜中の授乳を代わってほしかった。2時間おきの授乳のためほぼ寝れずとにかく寝たかった。 ・2ヶ月頃までは外出することも少ないので、助産師さんや保育士さんなどが定期的に訪問してくれると嬉しい ・パパ教育、パパ合宿、パパ洗脳 ママを1人にさせる制度 ・出産後も母乳マッサージの機会がほしかった。退院した後出産した病院とは別の助産師さんに出張マッサージに来てもらった。 ・もっと、先天性の疾患に詳しいとか、そういう子供を持つ親の事をわかる人が欲しい ・働いていない人でも気軽に使える一時保育システムなど。当日でも手続き簡単に利用できると尚良し。 ・早産で産まれた子ども、またその両親だけに対する全体的なサポート。

出生時体重	具体的内容
	・近くで開催している育児講習会等の情報がまとめて見られる区のホームページやアプリがあると便利だと思う。気になる講習会のお知らせ機能や、月齢別の講習会提案機能がついてると助かる。 ・より詳しく丁寧に話を聞いてくれてアドバイスしてくれる相談員と数時間子供を見てくれるサポート ・産後ケアセンターの利用が無料だと嬉しい ・早産経験者の集いがあると嬉しい。体の大きさなど他児と差があると感じてしまうことが度々あると、だんだん子育て支援センターなどにも行きにくくなってしまふ。 ・自分からは出向きにくい、又は発信しにくい分、定期的な様子伺いの発信をしてもらえたらよかった ・より使い勝手のよい市のファミリーサポート(民間のように支援者が自宅に来てくれる、病児保育の拡充等) ・おうち訪問、相談にいくほどでもないが、話をきいてほしかったりする。それだけで気分転換になる ・出産直後から 1 ヶ月くらいの間、子供のお世話を指導してくれる施設とか、産後ケアをしてくれる施設？が欲しかった ・低体重で産んでしまったが、まわりにあまり同じようなお母さんがいなかったため、成長の情報を共有したりする機会がなかったので、あったらよかったかなと思いました。 ・電話やインターネットで気軽に心配ごとや悩みを専門家に相談できるサポート ・何ヵ月の赤ちゃんは、こんな感じで、こんなことができます、などの情報を事前に欲しい。健診に行った時に冊子をいただいても、遅いと感じました。 ・離乳食についてなど教えてくれる方が家まで訪問してくれたら嬉しい。年の近いママ友が欲しいけど、知り合う機会があまりないので、ママ友を作る！という集まりがあったらいいと思います。 ・献立 食事量のめやすがほしい！ ・発達について不安、言葉の発達が遅め。待つしかないが、どのようなかわりが良いのか、丁寧に教えてほしい。 ・口唇口蓋裂の子供のその後。 ・検診等で応急措置の講習会を必須にしてほしい。全員が受けることで、もしもの場合に備えることができる。 ・1 歳半検診で色々確認できたので特にないが、もう少し頻度の多い検診が欲しい。 ・保育園への入園をしやすくして欲しい。仕事復帰も出来ず子供という時間が長いことで悪循環だった。 ・コミュニケーションの発達（指差しや会話）につながる接し方（遊び方） ・冬は遊びに行くところがない ・子育て仲間の集まりのお知らせ(同じ月齢の子供を持つ親同士だと話しやすい) ・土曜日開催の育児教室(職場復帰していると平日開催では参加したくてもできない。) ・公園に行っても子どもがいない。地域のお友達と遊べる機会、または保育園のお友達と遊べる機会が増えると嬉しいです。

■ その他の意見

その他次のような意見が寄せられた。

出生時体重	具体的内容
1500g 未満	・市の健診も大切なのはわかるが、病院でも健診を受けているので、何度も外出するリスクを考えると、どちらかだけではだめなのかと思う。特に寒い時期に外出させるのは不安。時期をずらすことも可能と説明は受けたが、外出頻度が多くなるのは月齢が小さい時期は親子共々負担に感じる。産まれてからずっとみてくださる先生に受診すれば事足りるように思う。
2000～2500g	・私の場合は産んだ翌日に子供が標準より小さいと言われ念のために産院とは別の総合病院の NICU に入りました。私は様子を簡単に見にいけることも出来ずとても不安でした（結局何事もなく 3 日あまりで退院）。産んですぐの子と離れてしまうお母さんの不安を少しでも和らげられるようなサポート（NICU の子供の様子がモニターで見られる等。プライバシーの観点から難しいかもしれませんが…）が受けられるといいなと思います。

6) 多胎児の保護者の意見

■ 多胎児ならではの悩み

多胎児ならではの悩みとして、無事に成長してくれるか、妊娠期の疾患、家族の協力等が抽出された。

時期	具体的内容
妊娠中	・早産で生まれる可能性があった ・双子が両方、大きくなり、無事に出産できるか。 ・逆子、多胎なので早産にならないか、胎児の大きさ ・妊娠高血圧症候群 切迫早産 ・全期間を通じて悪阻がひどく辛かった。多胎の場合、早産などによる未熟児などが多いと聞いていたのでそれが心配だった。 ・妊娠高血圧症候群になり、出産前は寝たきりの状態で体力が落ちていたため、産後に子育てができるのか不安だった。
退院直後	・手が足りない ・夫と不仲になった ・帝王切開後の傷の痛み ・呼吸が不安定 ・一人はかなり敏感で育てにくかった。 ・先天性の疾患への対応 ・夫の協力がなく、同時泣きにどうしたら良いか分からなくなった。 ・参考にできる人が少ない
3 歳の頃	・弟が産まれたので、3 人の育児になり、平等に接しているか心配

■ 育児用品について

育児用品に関する悩みとして、次のような意見が寄せられた。

具体的内容
・どのくらい必要かイメージができない ・サポートが少ない ・バギーなどの選択肢が狭い、使ってみなければ分からない ・先走って双子用の重い横並びのベビーカーを購入したものの、外出する機会もほとんどなく、車に乗せおろしたり玄関で広げたりするのが一人では困難な為、一人でも軽々もてる軽量のベビーカーか、抱っこ紐とひとり用ベビーカーの併用のどちらかにした方が絶対良かったと後悔しました。なので、ベビーカーは必要に応じて後から購入した方が良いと思います。

■ 大変さの乗り切り方

大変さの乗り切り方として、家族、友人への相談、インターネットでの情報収集等が挙げられた。

具体的内容
・4 か月検診時に質問をして解決 ・お互いの両親や親戚を頼った ・インターネットで情報を得たり、夫や両親と相談した。 ・母やママ友の協力や話す時間などで乗りきった。 ・泣きのピークだった時期が一番辛かったが、乗り切れたというよりは毎日死なせないことに必死なうちに過ぎ去ったという感覚。 ・夫が育児に協力的だった。2 歳頃までは自分の実家(群馬)へ年 4,5 回、各 1,2 週間くらい帰省していた。子供が歩くまでは私(母)ひとりでの外出が困難ではあったが、その期間は家に友人や元職場の先輩に遊びに来てもらい話を聞いて貰っていた。自治体などがやっている公的な支援活動については、親 1 人子供 2 人で参加すると必ず手伝って貰うことになるのが心苦しく参加をあきらめた。 ・夫婦で話し合う。インターネットで同じ状況で子育てをしている人から情報を得て、参考にしていた。

■ 欲しかったサポート・欲しいサポート

欲しかったサポート・欲しいサポートとして、出産前に多胎育児の情報、一時預かりサービス、同じ状況の保護者との交流、育児グッズに関する支援、買い物児の支援等が挙げられた。

具体的内容
・ファミリーサポート 託児所 病児保育 男性父親教室 ・親の話し相手になってほしい。多胎に対してのサポートや情報がほしい。 ・双子ならではの育児の仕方 たくさんの子どもを連れての外出は大変なので、人手が欲しい ・タクシー利用券、多胎児の出産前の情報（授乳やお風呂、就寝のタイミング）が増えて欲しい、特にパパママ両方に講習などがあるとパパの理解も深まると思う ・出産までに、双子育児に役立つグッズや、双子サークルなど情報交換ができる場所を知りたかった。全て自分でネットで調べたり、役場に問い合わせたりしていたので。 ・気軽に子供を預けて出かけたい。中古品、衣類等のバザー。 ・多胎児ファミリーだけのベビーカー等をおさがりできる掲示板などあればと思う。

具体的内容
・多胎児向けの集まり 一時保育（近くに空きがない） ・スーパーなど優先スペースの利用をしたかった。 ・1才までのホームヘルプサービス。兄弟の一時保育（無料）。外出時のサポート。双子サークル。 ・スーパーなどで2人乗せて押せるカート、双子用ベビーカーのまま入れるお店情報 ・冬のインフルエンザが流行する時期にお年寄りが沢山乗ったバスに赤ちゃんを連れて乗り込むのは少し躊躇われるので、タクシーの予約ができるようにしてほしい。 ・多胎児のお風呂を同時に一人で入れる方法。先輩ママからの発信がありがたい。 ・耳の聞こえについての専門の病院が近くにあるといい。 ・突発的な事情(親の体調不良や冠婚葬祭など)で必要が生じた際のスムーズな預りができる体制。年齢があがっても双子ならではの情報が欲しいので近隣の多胎家庭と触れあえる機会を創出してくれるイベント。 ・双子だと出産前も出産後もとても大変です、産前産後の4ヶ月しか保育園に入れなくて困りました。双子なので身動きも余りとれないので首が座るまでは保育園にいけるといいです

■ その他の意見

その他、後輩ママ・パパへのエールとして、次のような意見が寄せられた。

具体的内容
・出産前は双子は大変と言われ続けて、不安が募っていましたが、生まれてからは大変ではあるけど楽しい事が多いです。お金も一人より倍かかるけど、それよりも成長が楽しみでお金のことは気にならなくなりました。 ・かりられる手は全てかりて休める時は休む パパは仕事が大変かもしれないが妻が寝れてるか食べられてるか休められてるか言葉で確認して実行しママに一人の時間を少しでいいから定期的に作ってください ・周りの人に助けてもらえることは、どんどん助けてもらって、ママがしんどくならない環境を作る 1人でやろうとしなくていいと思う 何もかも完璧にやなくていい ・他の人に頼ることが大事です。 ・周りの人に沢山助けてもらい、少しでもママの1人時間を作って乗りきってください。 ・3歳になるとお出かけなどもしやすくなります。2人でよく遊んでくれるのでたすかります。双子ならではの大変さは残りますが、むちゃくちゃ可愛くなってきます。母ちゃん元気が1番です。叱りすぎたりしたら、落ち着いてからぎゅーっと抱きしめたりしています。双子以上は本当に大変。自分たちは頑張ってる！といたわってください。 ・退院後 1週間、夫が育休を取得してくれた。お陰で親同士がお互いのスキルや子どものことを理解できた。親の相互理解なくて多胎児育児は無理。1週間だけでも子どもと向き合ってください。 ・泣かすことは悪いことではない、何でも完璧にしようとしなない、諦めは肝心、苦しくなるような助言は聞き流す、とにかくスルー力をつけてください。子どもたちは大変なことが多いけどとても可愛いです。 ・大変なこともあるけど、双子だからこそたくさんの人に声をかけられることもありました。無理せずいいかげんに頑張ってください。 ・とても大変な時期もありましたが、トータルでは結局こどものかわいさや喜びが勝りました。凄く辛いのは短い期間なので周囲の手を借りたり、お金を使ってでも楽に楽しく過ごしたりして乗り気って欲しいです。 ・子どもたちは本当にかわいいけど、育児が大変で心が折れそうになることがあると思います。どうか頼れる人には甘えてサポートしてもらい、利用できるサービスは利用して、少しでも自分の時間を確保してリフレッシュしながら子育てをして下さい。 ・多胎の検診や出産時にとにかく同時に必要なものが多く、お金がすごくかかりました。区などで、気軽に行けるベビ

具体的内容
ー用品のバザーやお譲り会などがあるといいなと思います。 ・0才の間は毎日が必死で、子育てを楽しむ余裕はありませんでした。もっと同じ状況の人と関われる機会があれば悩みを共感しながら頑張れたように思う。育児サービスは有料のものばかりで、経済的な理由からあまり利用できず夫に頼るしかなかった。祖父母が近くにいない為、現在も人手は足りず厳しい状況は続いているので、もっと多胎児の育児へのサポートを充実させて欲しい。

3. アンケート調査結果からの示唆

保護者アンケート調査では、「定期健診を受けに来た子どもの保護者に、スマートフォン等を通じて回答いただく」という回答方法の労力の大きさのためか、13,000 件以上にのぼる保護者アンケート依頼状の配布数に対し、得られた回答数は 1,161 件であり、このうち特に多胎児については 19 件という、定量的な評価が難しい回答数にとどまった。

一方で、このような少ない回答数ではあるものの、多胎児の保護者は、特に退院直後のころについて 64.3%の回答者が「とても大変」と答え、「やや大変」を合わせると 90%を超えるなど、「大変」と回答した保護者の割合が著しく大きかった。子どもが単胎の場合は、出生時体重が小さい場合、退院直後や寝返りや離乳食を始めたころの不安がやや多い傾向にあるものの、成長につれて、その回答割合は小さくなった。

第3章 自治体等インタビュー調査

1. 調査概要

1) 目的

低出生体重児や多胎児の子育て支援や母子保健に係る取組の好事例を収集し、啓発資料の作成に活用することを目的として、ヒアリング調査を実施した。

2) 調査方法と調査対象の選定

予備調査として、全国の市区町村を対象として Web アンケート調査を実施した。結果、869 市区町村（回収率 49.9%）より回答が得られた。

回答のあった市区町村における低体重児者多胎児に対する支援の内容は以下のように分類・整理できた。

【多胎児支援】	【低出生体重児支援】
①仲間づくり・交流支援	①仲間づくり・交流支援
②多胎育児経験者による個別支援	②健診・個別相談
③妊婦健診受診券（補助券）の追加助成	③専門性のある教室
④育児負担軽減策	

上記の各取組に関して、研究会委員のご意見のもと、次のように対応方針を整理した上で、回答が得られた自治体からヒアリング候補を選定し、ヒアリング対象を決定した。

【多胎児支援】

①仲間づくり・交流支援	仲間づくり・交流支援のために必要と考えられる 1 ～ 2 か月に 1 回程度以上の頻度で実施している自治体をヒアリング候補とする。
②多胎育児経験者による個別支援	集団支援に重点を置くため、ヒアリング対象外とする。ただし、保護者にとっては有用な取組であることから、公開されている情報をもとに情報収集を行う。（産前・産後サポート事業等。一部共同実施あり）
③妊婦健診受診券（補助券）の追加助成	母子保健事業に注目することから、追加助成はヒアリング対象外とする。ただし、保護者にとっては有用な取組であることから、公開されている情報をもとに情報収集を行う。
④育児負担軽減策	

【低出生体重児支援】

①仲間づくり・交流支援	仲間づくり・交流支援のために必要と考えられる 1 ～ 2 か月に 1 回程度以上の頻度で実施している自治体をヒアリング候補とする。
②健診・個別相談	集団支援に重点を置くため、ヒアリング対象外とする。
③専門性のある教室	独自性のある取組として、地域の医療機関と共同実施している場合にヒアリング候補とする。

最終的に、以下の5つの市町にご協力をいただき、2019年2～3月に訪問によるヒアリング調査を実施した。

図表 6 ヒアリング先一覧

自治体名・団体名	ヒアリング実施日
東京都板橋区	2019年2月6日
東京都東大和市	2019年2月20日
東京都東村山市	2019年3月8日
兵庫県神戸市	2019年3月13日
NPO 法人きよね夢てらす（岡山県総社市）	2019年3月5日

3) 調査項目

主なヒアリング内容は以下のとおり。

図表 7 調査項目

調査項目	内容
基礎情報	・自治体概要（人口・年間出生数（うち多胎児数・低出生体重児数））
低出生体重児・多胎児に関する支援施策	・取組実施の経緯 ・取組の実施体制 ・庁内外の連携状況、連携内容 ・具体的な取組み内容 ・取組への参加者の状況 ・都道府県から支援を受けている内容 等
施策の効果・今後の展望	・低出生体重児・多胎児に関する支援施策による成果・効果 ・保護者等からの要望があれば具体的な内容。 ・低出生体重児・多胎児に関する支援施策に関する課題や今後の展望 等

2. 取組事例

1) 東京都板橋区

<地域の概要>

- ・板橋区には、板橋、上板橋、赤塚、志村、高島平の5つの健康福祉センターがある。健康福祉センターは板橋区保健所の組織であり、市町村業務をしている。志村健康福祉センターの管内人口は13.2万人である。
- ・2017年の板橋区の出生数は4,419人で、うち2500g未満の低出生体重児が392人である。多胎児の出生は、およそ年間30～50組程度である。

<多胎児を対象とした「ツインキッズクラブ」>

【事業概要】

- ・ツインキッズクラブ（ふたご・みつごの会）は2000年にスタートした。多胎児の子育てには通常とは別の知恵も必要という認識のもと、多胎児の母親の間で情報を共有するために立ち上げられた。多胎児の子育ては、体力面・精神面できわめて負担が大きく、加えて経済面の負担の大きさが問題となることもある。また多胎児でない子の親とは大きく状況が異なることも多く、その大変さをなかなか分かり合うのが難しい。
- ・現在、ツインキッズクラブは1～2ヶ月に1回程度、金曜日の午前に行っている。

【参加者の状況】

- ・妊婦面接の際に、多胎である場合はクラブの案内をし、すでに多胎児が生まれている場合だけではなく、妊娠中の人も参加できるようにしている。
- ・多胎児は虐待リスクも高いため、気になる家庭がある場合は地区担当の保健師が積極的に声かけをし、ツインキッズクラブへの参加を勧めている。
- ・参加者は多胎児の子育てに関する情報を聞きたい方や、子どもを遊ばせたい方が多い。
- ・参加者は、生後6カ月～幼稚園入園までの親子が多く、区内一円から来ている。参加組数は、各回平均して8～10組程度である。親子あわせて3人で、かなりの人数が集まることになるため、広い場所が必要となる。

【事業内容】

- ・多胎児の場合、遊びに出かけられる行き先を確保しづらいこともあり、当初は遊び場を設けるという性格が強く、季節のイベントなども行われていた。
- ・現在はそのような機能は児童館がメインとなっており、ツインキッズクラブの活動は、交流会がメインとなりつつある。交流会にあたっては、今困っていることについて話してもらったり、お風呂の入れ方等についてアドバイスを出し合ったりしている。加えて、身体測定や育児相談なども行っている。授乳や歯などに関する相談がある場合は、専門職が対応している。
- ・多胎児の妊娠、出産に関する医療機関情報についても参加者同士で共有ができる。

【実施体制】

- ・ツインキッズクラブの主催は志村健康福祉センターで、周知や司会、計測や育児相談など行っている。担当は保健師2名が専任で、その他、保育要員としてボランティアが参加する場合もある。このボランティアは民生委員や子育てサ

ポーター養成講座の修了者が担うことが多い。

【実施効果】

- ・ツインキッズクラブの効果としては、参加者同士で多胎児の育児の大変さや苦勞、喜び等を共有することで、前向きに子育てをできるようになる効果があると考え。また、これから多胎児を出産する方に向けて情報を伝達することで、その不安を取り除くことができているとも考える。ツインキッズクラブで参加者から出たアイデアはアイデア集としてリーフレットを作成し、参加できない多胎児の妊婦などにも渡している。

<自主グループ「ツインキッズⅡ」>

- ・2012 年には、ツインキッズクラブの参加者が他にも交流の場を作る目的で、自主グループ「ツインキッズⅡ」を立ち上げ、活動している。これはサークル活動としての集まりであるが、時には保健師も参加している。このような自主グループを作ってもらうことも、健康福祉センターとしては1つの目標とするところである。
- ・板橋区社会福祉協議会は区内のサロン活動への支援として、「福祉の森サロン」への登録グループに対し、活動費の助成やサロン保険の加入、広報活動支援やサロン連絡会の開催などを行っている。「ツインキッズⅡ」も、この「福祉の森サロン」の登録団体である。

2) 東京都東村山市

<地域の概要>

- ・東村山市は東京都北多摩地域にある人口約 15 万人の市である。
- ・2017 年の東村山市の出生数は 976 人である（人口動態調査）。多胎児は、年間に 12 で、おおむね 1 ヶ月に 1 組が生まれている計算となる。
- ・東村山市では、平成 21 年に母子保健係が健康課から分かれ、子ども家庭支援センターとともに、子育て支援課に置かれ、平成 29 年は子育て支援課から子ども家庭支援センターが独立し、平成 30 年度より子育てひろば等を担当する地域支援係、手当関係の育成係とともに 3 係体制となっている。

<多胎児を対象とした「ゆりかご多胎の会」>

【事業の経緯】

- ・母子保健が都の所管であった平成 8 年まで、当時の東村山保健所では、年 10 回程度のペースで、多胎や小さく産まれた赤ちゃんとお母さんの会を行っていた。平成 9 年に母子保健が市に移管された際に、これを引き継ぎたかったがかなわなかった。また、市助産師会と市の共催という形で、月 1 回、ふたごの会を開催していたが、これもファシリテーターとなっていた方のお子さんが大きくなり、その後を引き継ぐ人もいず、なくなってしまった。
- ・その後、清瀬市を拠点として活動している子育て支援の NPO 法人からの提案があり、平成 24 年度に NPO 法人と市（子ども総務課）、市の子育て総合支援センター「ころころの森」（指定管理方式）の共催で、「多胎児の会」と「小さく生まれた子のママの会」を各 5 回開催した。これは、NPO が福祉医療機構(WAM)の補助事業に申請する形で行った事業である。同様の事業は、翌 25 年度も実施した。
- ・平成 26・27 年度には、上記の補助事業が終了し、マンパワーに限界もある中で、26 年度に「多胎児の会」1 回、27 年度に「小さく生まれた子のママの会」1 回を行った。平成 28 年度には開催できなかったが、平成 29・30 年度には、多胎児の会が開催できた。会にあたっては、市の予算で保育人員を確保し、お母さんがリラックスしたり、専門職に相談したりできる時間がとれるようにしている。

【事業の内容】

- ・近年では、他の母子保健事業との業務量を勘案しつつ、開催内容や回数、時期等を試行錯誤しながら、主に多胎児の会を実施している。平成 29 年度は、6・9・1 月の 3 回にわたり、多胎児のお母さんを集めて、テーマを決めてグループワーク方式で悩みごとについて話し合ってもらった。平成 30 年度には、9 月下旬～10 月下旬の約 1 ヶ月間に 4 回を集中開催し、各回でテーマを決めて交流や相談の場を設けた。本来は、5～6 回開催すれば、都合がつかない回があったとしても、各参加者が 3 回程度参加でき、仲間作りにつながるため、望ましいと考えている。
- ・このような場を設けることで、参加者どうしが連絡先を交換しあい、ゆりかご多胎の会以外でも会う機会を自ら作るようになることも、ねらいの 1 つである。
- ・子育て総合支援センター「ころころの森」では、子どもが遊ぶことのできる施設を備えており、定期的に「ふたごちゃんの日」を設けている。これも、ふたごの親どうしの交流機会をもたらすものとなっている。

【参加者の状況】

- ・対象者は、多胎児を妊娠中の方から 1 歳 6 ヶ月までの多胎児の親子としている。より上の年齢の子どもも参加可能とすれば、年齢が上の家庭は下の家庭にとってのモデルとなるが、子どもの年齢が近い家庭同士のほうが、現在抱えている悩みを共有する面ではよいのではないかと判断した。

- ・平成 27 年度までは、「小さく生まれた子のママの会」を行っていたが、低出生体重児の場合、小さく生まれた理由や経過が様々であり、グループ化が難しいと感じている。これを踏まえ、近年では、低出生体重児の家庭については、個別の支援を中心としている。
- ・開催の案内は、対象年齢のふたごのいる家庭のほぼ全数に電話を行っている。ふたごの親は、外出しにくいなど、子育てがきわめて大変など、支援を要している親が多い一方、特段の支援を必要としていない親もいる。

【実施体制】

- ・「ゆりかご多胎の会」への対応は、正規職員の保健師と、嘱託の保健師、助産師がチームを組んであたっている。このほか、会の当日には、市の予算で保育人員を確保している。

【実施効果】

- ・平成 24 年・25 年に実施した「多胎児の会」では、参加者どうしが自主グループを作るなどの成果があった。

3) 東京都東大和市

<地域の概要>

- ・東京西部に位置する東大和市は人口 9 万人弱、年間出生数は平成 29 年度で 715 件、出生時体重 2500g 未満の低出生児は 60 人、多胎は 7 組。
- ・低出生体重児、多胎児ともにグループでの支援を実施。これら以外には訪問支援・金銭的支援等、これらの対象に特化した事業はない。

<低出生体重児を対象としたかんがるーグループ>

【事業概要】

- ・平成 17 年度より事業開始。2500 g 未満の低体重出生児を対象にしたグループ支援の取組として開始した。
- ・年 8 回、1 回あたり 2.5 時間をとり、保健センターを会場として、低体重出生児・未熟児を対象に、グループで集う場を設けた。
- ・スタッフとしては、事業開始当初は、市の保健師、雇い上げの保育士のみで担当していたが、途中からフリーで活躍する小児神経科医の医師、大学講師をしている作業療法士にも隔回ごとに関わってもらうこととした。
- ・参加者への案内は、新生児訪問もしくは乳児家庭全戸訪問事業や乳幼児健診の際にチラシ配布により行っている。そのほか、市の公式 H P、健康づくりカレンダーに掲載するとともに、市報でも案内している。
- ・チラシでは、作業療法士については触れていないが、市報では作業療法士がいるという旨も案内している~~あり~~、作業療法士の話が聞きたいと、保育園を休んで参加する人もいる。
- ・自主グループ化させて、市の事業としないことも考えたが、参加者がなかなか集まらなかったり、継続性が担保できないため、市の事業としてやり続けることとした。

【参加者の状況】

- ・事業の対象は未就学児とその保護者であるが、ほとんどの参加者が幼稚園等集団保育の就園前で、参加者は、新規参加者と継続参加者が半々ずつぐらいとなっている。出生時体重 2500g 未満を対象としているが、参加するのは極低出生体重児が多い。また、未熟児やダウン症の子どもも参加する。ただし、出生時体重 2000g 以上であっても、体重が増えないことに不安を感じて参加する人もいる。
- ・年間参加人数が平成 29 年度で延べ 41 人、1 回あたりの参加者は 1～2 組程度。申し込み制はとっておらず、ふらっと参加したい時に参加できる形にしているため、参加者がまったくいない回もある。（参加者がいない場合はスタッフカンファレンスを実施）

【事業内容】

- ・各回の内容は、参加者の状況に合わせている。身長体重の計測を行いたければ行い、その後自己紹介等をした後に、各種相談にのるという形をとっている。必要に応じて、保育士の手遊びを交えながら、母親の育児不安解消等に努めている。
- ・グループの中で把握した参加者の状況は、個人カルテに記し、市が乳幼児健診結果とともに紙ベースで保管している。記録の内容は、事業担当の間だけではなく、必要に応じて地区担当保健師とも共有している。

【参加者の声】

- ・参加者からは、同じ状況の保護者と話ができることにより、同じ悩みを持っていること等の共感ができること、保健師等に子どもの成長、発達の状況を一緒に喜んでもらえるということが非常に安心感につながっているようである。（4 か月を超えているのに、町中で、「あら 1 か月」と声を掛けられ傷ついた等の経験が共有化されていた。）
- ・医師や作業療法士がいることにより、たとえかかりつけ医がいても、そこでは聞けない別の視点から専門的な話を聞くこ

とができることにより、発達・発育がゆっくりであることもある低出生体重児の保護者は安心感を持てるようである。

<多胎児を対象としたさくらんぼグループ>

【事業概要】

- ・多胎児を対象とした集いの場の提供として、平成 16 年度に開始した多胎児支援のためのさくらんぼグループには、平成 29 年度に、延べ 59 人、1 回あたり 3 組ぐらいの家族が参加している。
- ・スタッフは、市の保健師 1 人、雇い上げの助産師 1 人、保育士 2 人で担当。
- ・参加者への案内は、母子健康手帳の交付時や新生児訪問もしくは乳児家庭全戸訪問事業や乳幼児健診の際にチラシ配布により行っている。そのほか、市の公式 H P、健康づくりカレンダーに掲載するとともに、市報でも案内している。多胎児でありかつ低出生体重児であることもあるが、多胎児の場合は多胎のグループ優先的に案内している。

【参加者の状況】

- ・母子健康手帳交付時に案内をしていることもあり、妊娠時点で双子であると分かっている保護者の参加もある。妊娠期の場合は、パートナーと一緒に参加することもある。
- ・双子の場合は継続的に参加する人も多く、出産後は首がすわる 4 か月目くらいからの参加が多い。
- ・グループに参加できるのは、ある程度力のある保護者であると思われるので、他の子育て関連の場にも参加しているようである。

【事業内容】

- ・各回の内容は、参加者の状況に合わせている。身長体重の計測を行いたければ行い、その後自己紹介等をした後に、各種相談にのるという形をとっている。座談会的な形で行っており、保育士が子どもを遊ばせながら、その横で保護者同士が話をし、保健師等もそこに参加している。
- ・市のスタッフは基本的には保護者同士のやり取りを見守る形となる。
- ・グループの中で把握した参加者の状況は、個人カルテに記し、市が乳幼児健診結果とともに紙ベースで保管している。記録の内容は、事業担当の間だけではなく、必要に応じて地区担当保健師とも共有している。
- ・かつての参加者が、保健センターに双子の洋服等を持ってきてくれることがあるため、さくらんぼグループ開催時に、会場の一角に広げ、ご自由にどうぞとしている。

【参加者の声】

- ・妊娠期から参加することができているため、妊娠期の参加者は多胎ならではの悩みを既に出産した保護者等から聞くこともでき、多胎の子育てのイメージが付きやすいようである。
- ・産後 2 人子どもがいることにより、2 人の子どもに対して同じように接することができないことに悩みを抱えていても、放っておくこともありだということを先輩保護者から聞くことができ、安心につながるようである。

4) 兵庫県神戸市

<地域の概要>

- ・人口約 150 万人、年間の出生数は 11393 人。双胎は年間 135 組、三胎は 2 組。極低出生体重児が 50 人。

<多胎児子育て教室>

【事業の経緯】

- ・平成 13 年度に開始した多胎児子育て教室は、平成 21 年度からひょうご多胎ネットから講師派遣をうけて運営してきた。

【事業内容】

- ・多胎児とその親（祖父母含む）、妊婦を対象に、多胎児の成長や育児に関する知識を提供し、親の育児不安の解消、負担の軽減を図り、親同士の情報交換・相互交流を行うことにより、仲間づくりを推進することを目的としている。
- ・市内 9 区 2 支所ある中で、6 つの区役所・支所を会場に実施している。各会場とも月 1 回もしくは 2 か月に 1 回ペースで開催し、年 2 回親子が別室になり、親だけで話ができる日も設けている。
- ・各回、受付をし、自由あそび、フリーディスカッションをして、片づけ、親子遊びとしている。

【参加者の状況】

- ・参加は 1 回あたり、5～10 組で 0～1 歳児の親子の参加が多い。繰り返し参加する人が多く、参加する人は、年間 3～4 回参加していることとなる。平日の開催となるため、父親の参加はあまり多くない。
- ・参加は必ずしも申込制ではないが、気になる人を区の保健師等につなぐようにしているため、新規で参加する際のみ、居住地が確認できるよう事前に申し込みをもらっている。

【実施体制】

- ・講師等をひょうご多胎ネットへ依頼しており、ひょうご多胎ネット担当者が中心に教室を運営。区役所などによる事業開催のため、後方支援として区の担当保健師が参加もしくは所内に待機し連絡がとれる体制をとっている。

【実施効果】

- ・多胎児特有の悩みや困りごとについて、相談や情報交換ができるため、参加者の満足度は高く、この教室に参加することがストレス解消につながったとの声もある。
- ・ひょうご多胎ネットが講師として参加しているため、同じ多胎児の親の立場から、支援してもらっている。
- ・参加者からは、継続的に開催してほしいという要望もある。

【今後の展望】

- ・多胎児子育て教室開催は継続する予定であり、教室以外の各種施策の充実も必要であると考えている。

<YOYO クラブ>

【事業の経緯】

- ・神戸大学が開催していた極低出生体重児の教室を、平成 11 年度より神戸市の事業と位置づけている。

- ・極低出生体重児とその保護者に小児科医等専門スタッフによる指導・助言で必要な情報提供を行うことにより、乳幼児期の神経学的障害の早期発見と保護者の育児不安解消を図ることを目的に実施している。また、保護者同士の仲間づくりの支援も目的にしている。
- ・当初、神戸大学のスタッフが主体となりスタートした教室であったが、平成 30 年度より極低出生体重児育児支援システム研究会（任意団体）に YOYO クラブの運営が引き継がれた。
- ・神戸市総合児童センターより同システム研究会への委託事業として実施されている。

【事業内容】

- ・極低出生体重児とその親を対象に、子どもの年齢で 4 つのグループに分け、各グループ月 1 回の集まりを開催している。
- ・子どもの発達・発育に不安のある児の子育てについて横のつながりを持ってもらうために年齢別のグループを作り、同じぐらいの体の大きさの子どもが集まるようにしている。
- ・年間で予定が組まれており、基本は前半が親子遊び、後半は親子分離をしての座談会とし、専門職等のアドバイスを聞ける。

【参加者の状況】

- ・参加は 1 回あたり、5～10 組。
- ・3 歳児ごろになると、保育園・幼稚園や療育に行くまでの期間のつなぎ的な場、生活の場で親子で友達を見つけたり、出かける練習をしたりする機会となっている。
- ・参加は必ずしも申込制ではないが、気になる人を区の保健師等につなぐようにしているため、新規で参加する際のみ、居住地が確認できるよう事前に届け出ってもらうようにしている。
- ・極低出生体重児の保護者は、一般の子育て広場等に行くと、自身の子どもを安心して遊ばせられなかったり、発育・発達に差を感じる事もあるため、同じ経験を共感できる場の提供の意義は大きい。

【実施体制】

- ・極低出生体重児育児支援システム研究会には、小児医療に関する各専門職が参画しており、各回のスタッフ等は、研究会内でシフトを組んでいる。
- ・親子分離の時間もあり、保育担当等のスタッフを配置している。研究会からは予算を増やしてもらえると 1 回あたりに配置できるスタッフを増やせて参加者を増やすことができるという要望もある。

【実施効果】

- ・小児科医師や臨床心理士による指導・助言により、参加者は専門的な育児指導を受けることができている。
- ・親子遊びやグループワークの時間が設けられており、それにより、仲間づくりができている。

【今後の展望】

- ・YOYO クラブは継続予定。原則 3 歳までが対象であるため、それ以降の継続的な支援が必要と考えている。

5) NPO 法人きよね夢てらす子育て応援っこ（岡山県総社市）

<地域の概要>

- ・岡山県総社市は岡山県の中南部にある人口 67,920 人の市。
- ・2017 年の東村山市の出生数は 535 人である。

<NPO 法人の活動経緯>

- ・NPO 法人きよね夢てらすが、子育て応援っこを平成 14 年 6 月に開始。旧清音村時代に行政との共同事業として開始。はじめは 1 カ所、なかよし広場っこを開始し、徐々に会場も増やしていった。現在は市内 3 カ所の会場で子育て広場を運営。
- ・双子ちゃんタイムの実施は、NPO 法人が企画。子育て広場には、双子がよく来てくれて、他の親に言えない双子ならではの悩み・育児不安があるとのことで、双子の親子だけが集える場をつくってもよいのではないかと考えた。
- ・市に働きかけ、委託事業として実施することになった。

<双子ちゃんタイムの概要>

- ・こっかが運営する 3 カ所の子育て広場のうちの 1 カ所である、商業施設の 1 室を借りた広場にて、平成 23 年 3 月から双子ちゃんタイムを開始した。
- ・月 1 回、第 4 土曜日の午前中に、地域で活動する助産師も交えて双子だけの時間を設けている。
- ・1 回あたりの参加は、妊婦も含めて 5 ～ 10 組程度で、小学生、幼稚園の子も何組かいるが、2、3 歳の子どもの親子が中心である。生後 1 歳未満も 2 組はいる。多くはピーターで、新しい人も随時参加してきている。
- ・行政での母子健康手帳配布時に双子ちゃんタイムのお知らせを配ってもらっている。土曜日開催なので、幼稚園児も参加できる。
- ・運営には、毎回助産師が来て、保育士、栄養士、看護師等の資格をもつスタッフが 1 ～ 2 名参加する。やることに応じてスタッフを増減させる。
- ・年間計画も決めており、お茶会、不用品交換会、ヨガの日、パパ集まれ、先輩ママとはなそう、クリスマスリース作成等季節に合わせたプログラムを組んでいる。ランチタイム等、子どもを預かっての会も設けている。
- ・多胎支援協会とコラボもした取組みも実施した。
- ・不用品交換会については、先輩ママがものを集めてくれて、双子ちゃんにあげたいとのことで、1 月にも実施した。ベビーカー等ほしい人がいたら、情報を集めて、案内している。

<実施の効果>

- ・多胎家庭の悩みは他の親と違って、何が大変？と言われ傷つくことも多い。「『一卵性、二卵性？』と聞かれるのは嫌だ」という声もある。同じ悩みを持つ人と話せる機会があるとありがたいとのことで、困ったことがあっても双子ちゃんタイムに参加するとたいしたことないと思えるようである。
- ・近隣の市には、このような双子の集いがないので、双子ちゃんタイムに参加してくる。他市のママが双子サークルを立ち上げることもある。
- ・双子ちゃんタイムは今後も続けていく。月 1 回の双子ちゃんタイムは、子育てひろばに来てもらうきっかけになればいいと考えている。ふらっと来てもらい、いろいろな関係作りがスタッフとできればよいと考えている。

第4章 啓発資材の作成

1. 調査概要

1) 目的

低体重児や多胎児の保護者における支援ニーズに応じた母子保健事業の展開に資することを目的として、母子保健事業で活用することができる、低出生体重児や多胎児の成長・発達、育児支援等に関する支援者（母子保健事業を担う自治体の保健師等）向け及び保護者向けの啓発資材を検討、作成した。

具体的には、①低出生体重児のいる家庭に関する保健師向け支援マニュアル、②多胎児のいる家庭に関する保健師向けマニュアル、③多胎児の保護者向けのリーフレットの3種を作成した。

2) 作成方法

研究会での議論を踏まえ、以下の方針に基づき啓発資材の検討を行った。啓発資材は、事務局にて骨子を作成の上、研究会委員からご意見・ご指導をいただきながら最終成果物を作成した。成果物作成に当たり、一部の研究委員及び学識に資料のご提供をいただいた。

①低出生体重児のいる家庭に関する保健師向け支援マニュアル

- ✓ マニュアルは低出生体重児がいる家庭の支援にあたる自治体の保健師を対象とするものであり、支援に必要な基礎知識や保護者のニーズ、支援のポイント等について整理した内容とする。
- ✓ 既存のマニュアルとして平成24年度厚生労働省科学研究による「低出生体重児保健指導マニュアル」があるが、作成から6年が経過していることから、データの更新を行うことで、マニュアルを作成する。
- ✓ 改訂の際は、これまであまり焦点があてられてこなかった出生体重児2000～2499gの子どもとその保護者の特徴や必要な支援についても記載する。

②多胎児のいる家庭に関する保健師向けマニュアル

- ✓ マニュアルは多胎児がいる家庭の支援にあたる自治体の保健師を対象とするものであり、支援に必要な基礎知識や保護者のニーズ、支援のポイント等について整理した内容とする。
- ✓ 平成24年度厚生労働省科学研究による「低出生体重児保健指導マニュアル」を改訂する際、近年支援ニーズが高まっている多胎児への支援に当たって特に必要となる基礎知識や支援のポイントを別途整理し、取りまとめる。
- ✓ 多胎児の多くが低出生体重児であるが、低出生体重児に共通して必要な支援の内容は上記①のマニュアルを参照させる。
- ✓ 保健師による保護者支援の際に実際に活用できるツールとして、③のリーフレットを参考資料として添付する。

③多胎児の保護者向けのリーフレット

- ✓ リーフレットは多胎児の母親または父親等を対象としたものであり、妊娠中から今後の見通しや準備すべきこと等、相談窓口や利用可能な支援・サービス等に関する情報を得られる内容とする。
- ✓ 読みやすさ・使いやすさを考慮して全4ページとし、すごろく形式で妊娠期から子育て期におけるよくある疑問やヒントを盛り込む。
- ✓ 周囲を頼って良いこと、市町村として支援することが分かるような内容とする。
- ✓ 各市町村において活用可能なように、可変式の電子媒体で作成する。

なお、上記①～③の方針のほか、3種類の啓発資材共通の作成方針として、次の点についても留意した。

- ✓ 読みやすい文字サイズ・デザイン・章立てとする。特にリーフレットに関しては親しみやすいデザインとする。
- ✓ 可能な限り最新のデータの収集に努める。
- ✓ 保護者 web アンケート調査結果や自治体等インタビュー調査の結果を活用し、具体的に参考となる情報を掲載する。

2. 啓発資材の作成

1) 啓発資材の目的と活用方法

本事業で作成した啓発資材は、低出生体重児や多胎児の保護者における支援ニーズに応じた母子保健事業の展開に資することを目的としたものであり、母子保健事業で活用することができる内容としている。

支援者向けの資材は「低出生体重児保健指導マニュアル」と「多胎児支援のポイント」の2種がある。低出生体重児のうち、特に多胎児の支援に当たる際のポイントは「多胎児支援のポイント」を参考にさせていただくことを想定している。これらの啓発資材は主に低出生体重児や多胎児の保護者の支援に当たる自治体の保健師を対象としたものであるが、地域でこれらの保護者の支援に当たっている関係機関や他職種、自治体保健師等の連携先となる医療機関等においても参考となる内容となっている。

保護者向けの資材は多胎児の保護者を対象としたものである。例えば母子健康手帳の交付時に一緒に手渡していただくことで、不安や戸惑いを感じている保護者に対して、自治体としてサポートするという姿勢を伝えることができる。妊娠期から支援を始めることで、出産前後から子育て期においても切れ目なく支援を提供できるようになることが期待できる。保護者においては、妊娠中の段階から今後の見通しやよくある疑問・ヒント、相談窓口や利用可能な制度・サービスを知ることができ、出産・子育てに向けた準備等を行えるようになることが期待できる。

なお、各保護者等への実際の支援は、個別の支援ニーズや子ども、保護者、家庭の状況等を十分に把握したうえで検討すべきであり、個々の子どもや保護者、家庭の状況に応じて、必要に応じて関係機関と連携しながら対応する必要がある点に十分留意する必要がある。

2) 啓発資材の構成

本調査研究事業で作成した啓発資材は、啓発資材のみを冊子として印刷して活用できるよう、独立した形で取りまとめ、巻末に本研究の成果として掲載している。また、保護者向けリーフレットは、各自治体において相談窓口等を記載できるよう、可変式の電子媒体で作成している。

啓発資材の構成は次のとおりである。

低出生体重児のいる家庭に関する保健師向け支援マニュアル
「低出生体重児保健指導マニュアル」

はじめに 第1章 低出生体重児への支援に必要な基本的なこと 1. 低出生体重児について 2. 低出生体重児の背景要因 3. 低出生体重児の発育 4. 低出生体重児の発達 5. 低出生体重児 2000 以上 2500g 未満児の特徴 6. 新生児に必要な医療～極低出生体重児を中心に～ 7. 未熟（児）網膜症 (Retinopathy Of Prematurity, ROP)	第2章 低出生体重児の家族への支援 1. 病院で行われている赤ちゃん・家族への配慮 2. 低出生体重児を出産した母親の心理 3. 入院中からの保健師による支援の必要性 4. 家族アセスメント 5. 家庭訪問を中心とした支援 第3章 低出生体重児への支援に必要な基本的なこと 1. 広域医療機関と市区町村の連携 2. 地域医療機関（かかりつけ医）との連携支援 よくあるお母さん・お父さんからの Q&A 参考：略語集
--	--

多胎児のいる家庭に関する保健師向け支援マニュアル
「多胎児支援のポイント」

はじめに 第1章 多胎児への支援に必要な基本的なこと 1. 多胎の妊娠・出産の状況 2. 多胎妊娠の母児における医学的なリスク 3. 多胎児の発達・発育 4. 多胎妊娠の経過 第2章 多胎児の家族への支援のポイント 1. 妊娠中からの継続的な関与 2. 育児環境のアセスメント	3. 父親・パートナーに向けた支援 4. 地域の医療機関との連携 5. 多職種連携による支援 第3章 具体的な支援策 1. 育児負担軽減のための支援 2. 孤立予防・仲間づくりに関する支援 3. 経済的な支援 よくあるお母さん・お父さんからの Q&A 参考資料 ふたご・みつごを育てるあなたへ
--	--

多胎児の保護者向けのリーフレット
「ふたご、みつごを育てるあなたへ」

p.1 表紙 p.2～3 見開き： 妊娠期・出産直後・3～4か月・12か月～6歳までの間でよくある疑問・困りごとに対し、先輩ママ・パパの声や解説をすぐろく形式で掲載 p.4 裏表紙：各自治体の相談窓口等※ ※自治体ごとに編集可能

3. 啓発資材の改善と低出生体重児・多胎児への支援に向けた課題

本事業で作成した啓発資材は、低出生体重児や多胎児の保護者における支援ニーズに応じた母子保健事業の展開に資することを目的としたものであり、母子保健事業で活用することができる内容としている。

現場の専門職等が、低出生体重児・多胎児への支援に向けて必要となる最新のデータの収集を試みたものの、公的統計で十分に収集できるものばかりではなかったため、掲載できないものもあった。今後、支援に役立つ統計資料等の更新がされることが期待される。

参考資料

保護者 web アンケート調査票

子育てに関する保護者アンケート調査

【注】

- この保護者アンケート調査は、集団健診による ◆3～5か月児健康診査 ◆1歳6か月児健康診査 ◆3歳児健康診査 を受診されたお子さんの保護者の方に、スマートフォン等からご回答頂く Web アンケート調査です。
- 回答画面の設計上、実際の調査では、このファイルの文言と多少異なる部分が生じます。
- 「Q5」までは、「多胎児の保護者向け（多胎用、別ファイル）」の調査と「多胎児以外の保護者向け（単胎用）」の調査とで共通となっています。Q5で「はい」を選択すると、「多胎用」のQ6以降の設問に移り、「いいえ」を選択すると、本紙のQ6以降の設問に移ります。

このアンケート調査は、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんの保護者の方に、回答をお願いしております。

I. お住まいの地域についてお尋ねします。

Q1 今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんのお住まいの都道府県・市区町村はどこですか。

※プルダウン形式

（ ）都・道・府・県 （ ）市・区・町・村

II. あなた（保護者）のことについてお尋ねします。

Q2 あなた（保護者）の年齢は何歳ですか。

- ☐ 1. ～19 歳
- ☐ 2. 20～24 歳
- ☐ 3. 25～29 歳
- ☐ 4. 30～34 歳
- ☐ 5. 35～39 歳
- ☐ 6. 40～44 歳
- ☐ 7. 45 歳～

Q3 あなたは、今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんからみて、どの続柄にあてはまりますか。

- ☐ 1. お母さん
- ☐ 2. お父さん
- ☐ 3. その他（ ）

Ⅲ. 今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんのことについてお尋ねします。

Q4 今回、お子さんが受ける（受けた）乳幼児健診は、次のどれですか。

- ☐ 1. 3～5か月児健康診査
- ☐ 2. 1歳6か月児健康診査
- ☐ 3. 3歳児健康診査
- ☐ 4. その他（ ）

Q5 今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんは、多胎児（ふたご や みつご等）ですか。

- ☐ 1. はい
- ☐ 2. いいえ

（Q5で「いいえ」と答えた場合、以下の設問に遷移）

Q6 今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんに、きょうだいはいますか。

- ☐ 1. 兄・姉がいる
- ☐ 2. 弟・妹がいる
- ☐ 3. いらない

Q7 今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんを妊娠中、切迫早産で入院したことがありますか。

- ☐ 1. ある
- ☐ 2. ない

Q8 今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんは、妊娠何週で生まれましたか。

妊娠（ ）週

Q9 今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんが産まれた時の体重はどのくらいでしたか。

- ☐ 1. ～1499g
- ☐ 2. 1500～1999g
- ☐ 3. 2000～2499g
- ☐ 4. 2500g 以上

Q10 今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんが、日中、主に過ごす場所はどこですか。

- ☐ 1. 自宅
- ☐ 2. 保育園・幼稚園など
- ☐ 3. その他（ ）

Q11 今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんは、ご病気や発育・発達の経過観察のため定期的に受診していますか。

- 1. 定期的に通っている
- 2. 定期的には通っていない

Q11-2 【Q11 で「定期的に通っている」とお答えの方にお尋ねします】 経管栄養や在宅酸素など、日常的に医療的ケアが必要ですか。

- 1. 必要である
○2. 必要でない

IV. 今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんの子育てについてお聞きます。

Q12 今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんの子育てについて、あなたはどれくらい大変だと感じますか。

以下のそれぞれの時点について、5 段階（1：大変ではない ～ 5：とても大変）でお答えください

- ① お子さんの退院直後のころ : ○1. 大変ではない ○2. あまり大変ではない ○3. どちらでもない
○4. やや大変 ○5. とても大変
- ② 寝返りや離乳食を始めたころ : ○1. 大変ではない ○2. あまり大変ではない ○3. どちらでもない
○4. やや大変 ○5. とても大変
○6. まだ寝返り・離乳食を始めていない
- ③ 歩きはじめたころ : ○1. 大変ではない ○2. あまり大変ではない ○3. どちらでもない
○4. やや大変 ○5. とても大変
○6. まだ歩きはじめていない
- ④ ④ 3歳のころ : ○1. 大変ではない ○2. あまり大変ではない ○3. どちらでもない
○4. やや大変 ○5. とても大変
○6. まだ3歳になっていない

Q13 今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんについて、それぞれの時点でどのようなことが大変または心配でしたか。

①「退院直後」（複数回答あり）

＜回答者ご自身について＞

- ☐1. 育児による体の疲れ
- ☐2. 育児によるこころの疲れ
- ☐3. なんとなく孤独だった
- ☐4. なんとなく不安だった
- ☐5. なんとなく子どもを育てにくいと思った
- ☐6. その他（ ）
- ☐7. 特に大変さや心配なことはなかった

＜お子さんについて＞

- ☐ 1. 体重の増えかたが順調か心配だった
☐ 2. 順調に発達するか心配だった
☐ 3. その他、子どもについて心配があった（ ）
☐ 4. 子どもについて、特に心配なことはなかった

＜子育てについて＞

- ☐ 1. 子どもの世話（抱き方、授乳、入浴など）の仕方が、これでいいか心配だった
- ☐ 2. 家族が子育てに協力的ではなかった
- ☐ 3. きょうだいの世話が十分にできなかった
- ☐ 4. その他、子育てについて心配なことがあった（ ）
- ☐ 5. 子育てについて、特に心配なことはなかった

(Q12②で「まだ寝返り・離乳食を始めていない」を選択した場合は②を通過

②「寝返りや離乳食を始めたころ」（複数回答あり）

＜回答者ご自身について＞

- ☐ 1. 育児による体の疲れ
- ☐ 2. 育児によるこころの疲れ
- ☐ 3. なんとなく孤独だった
- ☐ 4. なんとなく不安だった
- ☐ 5. なんとなく子どもを育てにくいと思った
- ☐ 6. その他（ ）
- ☐ 7. 特に大変さや心配なことはなかった

＜お子さんについて＞

- ☐ 1. 体重の増えかたが順調か心配だった
- ☐ 2. くびがすわっているか、「アーアー」などの声を出すかなど、発達が順調か心配だった
- ☐ 3. 離乳食をなかなか食べないことが心配だった
- ☐ 4. 夜泣きなど、泣くことが多いことが心配だった
- ☐ 5. その他、子どもについて心配があった（ ）
- ☐ 6. 子どもについて、特に心配なことはなかった

＜子育てについて＞

- ☐ 1. 子どもの世話（抱き方、授乳、入浴など）の仕方が、これでいいか心配だった
- ☐ 2. いつ離乳食をはじめると良いかわからなかった
- ☐ 3. 家族が子育てに協力的ではなかった
- ☐ 4. きょうだいの世話が十分にできなかった
- ☐ 5. その他、子育てについて心配なことがあった（ ）
- ☐ 6. 子育てについて、特に心配なことはなかった

(Q12③で「まだ歩きはじめていない」を選択した場合は③を通過

③「歩きはじめた頃」（複数回答あり）

＜回答者ご自身について＞

- ☐ 1. 育児による体の疲れ
- ☐ 2. 育児によるこころの疲れ
- ☐ 3. なんとなく孤独だった
- ☐ 4. なんとなく不安だった
- ☐ 5. なんとなく子どもを育てにくいと思った
- ☐ 6. その他（ ）
- ☐ 7. 特に大変さや心配なことはなかった

＜お子さんについて＞

- ☐ 1. 体重の増えかたが順調か心配だった
- ☐ 2. ひとり歩きをするか、意味のある単語を話すかなど、発達が順調か心配だった
- ☐ 3. 夜泣きなど、泣くことが多いことが心配だった
- ☐ 4. その他、子どもについて心配があった（ ）
- ☐ 5. 子どもについて、特に心配なことはなかった

＜子育てについて＞

- ☐ 1. 食が細い、好き嫌いが激しい等に悩んだ
- ☐ 2. しつけがこれでいいのか悩んだ
- ☐ 3. 動き回るため目が離せなかった
- ☐ 4. 家族が子育てに協力的ではなかった
- ☐ 5. きょうだいの世話が十分にできなかった
- ☐ 6. その他、子育てについて心配なことがあった（ ）
- ☐ 7. 子育てについて、特に心配なことはなかった

(Q12④で「まだ3歳になっていない」を選択した場合は④を通過

④「3歳の頃」（複数回答あり）

＜回答者ご自身について＞

- ☐ 1. 育児による体の疲れ
- ☐ 2. 育児によるこころの疲れ
- ☐ 3. なんとなく孤独だった
- ☐ 4. なんとなく不安だった
- ☐ 5. なんとなく子どもを育てにくいと思った
- ☐ 6. その他（ ）
- ☐ 7. 特に大変さや心配なことはなかった

＜お子さんについて＞

- ☐ 1. 体重の増えかたが順調か心配だった
☐ 2. ジャンプするか、単語を続けて文章を話すかなど、発達が順調か心配だった
☐ 3. その他、子どもについて心配があった（ ）
☐ 4. 子どもについて、特に心配なことはなかった

＜子育てについて＞

- ☐ 1. 食が細い、好き嫌いが激しい等に悩んだ
- ☐ 2. 友達と遊ぶことが苦手なことに悩んだ
- ☐ 3. トイレトレーニングが順調に進まず、悩んだ
- ☐ 4. しつけがこれでいいのか悩んだ
- ☐ 5. 動き回るため目が離せなかった
- ☐ 6. 家族が子育てに協力的ではなかった
- ☐ 7. きょうだいの世話が十分にできなかった
- ☐ 8. その他、子育てについて心配なことがあった（ ）
- ☐ 9. 子育てについて、特に心配なこととはなかった

Q14 心配なことや大変なことについて、どのように乗り越えましたか。

Q15 心配なことや大変なことを乗り越えるために、どのようなサポートや情報があるとよいですか。

① これまでに欲しかったサポートや情報

② 現在、欲しいサポートや情報

Q16 その他、お子さんの育児について、御意見等を御記入ください。

質問は以上です。御協力ありがとうございました。

子育てに関する保護者アンケート調査

【注】

- この保護者アンケート調査は、集団健診による ◆3～5か月児健康診査 ◆1歳6か月児健康診査 ◆3歳児健康診査 を受診されたお子さんの保護者の方に、スマートフォン等からご回答頂く Web アンケート調査です。
- 回答画面の設計上、実際の調査では、このファイルの文言と多少異なる部分が生じます。
- 「Q5」までは、「多胎児の保護者向け（多胎用）」の調査と「多胎児以外の保護者向け（単胎用、別ファイル）」の調査とで共通となっています。Q5で「はい」を選択すると、本紙のQ6以降の設問に移り、「いいえ」を選択すると、「単胎用」のQ6以降の設問に移ります。

このアンケート調査は、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんの保護者の方に、回答をお願いしております。

I. お住まいの地域についてお尋ねします。

Q1 今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんのお住まいの都道府県・市区町村はどこですか。

※プルダウン形式

（ ）都・道・府・県 （ ）市・区・町・村

II. あなた（保護者）のことについてお尋ねします。

Q2 あなた（保護者）の年齢は何歳ですか。

- ☐ 1. ～19 歳
- ☐ 2. 20～24 歳
- ☐ 3. 25～29 歳
- ☐ 4. 30～34 歳
- ☐ 5. 35～39 歳
- ☐ 6. 40～44 歳
- ☐ 7. 45 歳～

Q3 あなたは、今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんからみて、どの続柄にあてはまりますか。

- ☐ 1. お母さん
- ☐ 2. お父さん
- ☐ 3. その他（ ）

Ⅲ. 今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんのことについてお尋ねします。

Q4 今回、お子さんが受ける（受けた）乳幼児健診は、次のどれですか。

- ☐ 1. 3～5か月児健康診査
- ☐ 2. 1歳6か月児健康診査
- ☐ 3. 3歳児健康診査
- ☐ 4. その他（ ）

Q5 今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんは、多胎児（ふたご や みつご等）ですか。

- ☐ 1. はい
- ☐ 2. いいえ

（Q5で「はい」と答えた場合、以下の設問に遷移）

Q6 今回、乳幼児健診を受ける（受けた）ふたご・みつご等のお子さんたちの他に、きょうだいはいいますか。

- ☐ 1. ふたご・みつご等の他に、兄・姉がいる
- ☐ 2. ふたご・みつご等の他に、弟・妹がいる
- ☐ 3. ふたご・みつご等の他に、きょうだいはいない

Q7 今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんたちを出産される前に、お母さんはどのくらいの期間入院されましたか。

（ ）週間程度

Q8 今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんたちを妊娠中に、心配だったことは何ですか。

Q9 多胎児用の育児用品の準備についてお尋ねします。

①多胎児用の育児用品を準備した時期はいつ頃ですか。

妊娠（ ）か月頃

②多胎児用の育児用品を準備するにあたり、困ったことは何ですか。（複数回答）

- ☐ 1. 情報が少ない
- ☐ 2. 身近な場所で手に入りにくい
- ☐ 3. 費用がかかる
- ☐ 4. その他（ ）

Q10 今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんたちは、妊娠何週で生まれましたか。

妊娠（ ）週

Q11 今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんたちが産まれた時の体重はどのくらいでしたか。

①ふたご・みつご等のうち、最初に産まれたお子さん

- ☐ 1. ～1499g ☐ 2. 1500～1999g ☐ 3. 2000～2499g ☐ 4. 2500g 以上

②ふたご・みつご等のうち、2 番目に産まれたお子さん

- ☐ 1. ～1499g ☐ 2. 1500～1999g ☐ 3. 2000～2499g ☐ 4. 2500g 以上

③みつご等のうち、3 番目に産まれたお子さん

- ☐ 1. ～1499g ☐ 2. 1500～1999g ☐ 3. 2000～2499g ☐ 4. 2500g 以上
☐ 5. みつご以上ではない

Q12 今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんたちが、日中、主に過ごす場所はどこですか。

- ☐ 1. 自宅
☐ 2. 保育園・幼稚園など
☐ 3. その他（ ）

Q13 今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんたちの中に、ご病気や発育・発達の経過観察のため定期的に受診しているお子さんがいますか。

- ☐ 1. 定期的に通っているお子さんがいる
☐ 2. 定期的に通っているお子さんはいない



Q13-2 【Q13 で「定期的に通っているお子さんがいる」とお答えの方にお尋ねします】 経管栄養や在宅酸素など、日常的に医療的ケアが必要ですか。

- ☐ 1. 必要である
☐ 2. 必要でない

IV. 今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんたちの子育てについてお聞きます。

Q14 今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんたちの子育てについて、あなたはどれくらい大変だと感じます

か。以下のそれぞれの時点について、5 段階（1：大変ではない ～ 5：とても大変）でお答えください。

- ① お子さんの退院直後のころ : ○1. 大変ではない ○2. あまり大変ではない ○3. どちらでもない
○4. やや大変 ○5. とても大変
- ② 寝返りや離乳食を始めたころ : ○1. 大変ではない ○2. あまり大変ではない ○3. どちらでもない
○4. やや大変 ○5. とても大変
○6. まだ寝返り・離乳食を始めている
- ③ 歩きはじめたころ : ○1. 大変ではない ○2. あまり大変ではない ○3. どちらでもない
○4. やや大変 ○5. とても大変
○6. まだ歩きはじめていない
- ④ 3歳のころ : ○1. 大変ではない ○2. あまり大変ではない ○3. どちらでもない
○4. やや大変 ○5. とても大変
○6. まだ3歳になっていない

Q15 今回、乳幼児健診を受ける（受けた）お子さんたちについて、それぞれの時点でどのようなことが大変または心配でしたか。

①「退院直後」（複数回答あり）

＜回答者ご自身について＞

- ☐ 1. 育児による体の疲れ
- ☐ 2. 育児によるこころの疲れ
- ☐ 3. なんとなく孤独だった
- ☐ 4. なんとなく不安だった
- ☐ 5. なんとなく子どもを育てにくいと思った
- ☐ 6. 子どもたちに対する気持ちになんとなく差があるように感じた
- ☐ 7. その他（ ）
- ☐ 8. 特に大変さや心配なことはなかった

<お子さんたちについて>

- ☐ 1. 体重の増えかたが順調か心配だった
- ☐ 2. 順調に発達するか心配だった
- ☐ 3. 子どもたちの間の体重の増えかたや発達の違いが心配だった
- ☐ 4. その他、子どもたちについて心配があった（ ）
- ☐ 5. 子どもたちについて、特に心配なことはなかった

＜子育てについて＞

- ☐ 1. 子どもの世話（抱き方、授乳、入浴など）の仕方が、これでいいか心配だった
- ☐ 2. 授乳の方法やタイミングに悩んだ
- ☐ 3. お風呂の入れ方やタイミングに悩んだ
- ☐ 4. 同時泣きへの対応に困った
- ☐ 5. 家族が子育てに協力的ではなかった
- ☐ 6. きょうだいの世話が十分にできなかった
- ☐ 7. 外出することが大変だった
- ☐ 8. その他、子育てについて心配なことがあった（ ）
- ☐ 9. 子育てについて、特に心配なことはなかった

(Q14②で「まだ寝返り・離乳食を始めていない」を選択した場合は②を通過

②「寝返りや離乳食を始めたころ」（複数回答あり）

＜回答者ご自身について＞

- ☐ 1. 育児による体の疲れ
- ☐ 2. 育児によるこころの疲れ
- ☐ 3. なんとなく孤独だった
- ☐ 4. なんとなく不安だった
- ☐ 5. なんとなく子どもを育てにくいと思った
- ☐ 6. 子どもたちに対する気持ちになんとなく差があるように感じた
- ☐ 7. その他（ ）
- ☐ 8. 特に大変さや心配なことはなかった

＜お子さんたちについて＞

- ☐ 1. 体重の増えかたが順調か心配だった
- ☐ 2. くびがすわっているか、「アーアー」などの声を出すかなど、発達が順調か心配だった
- ☐ 3. 離乳食をなかなか食べないことが心配だった
- ☐ 4. 夜泣きなど、泣くことが多いことが心配だった
- ☐ 5. 子どもたちの間の体重の増え方や発達の違いが心配だった
- ☐ 6. その他、子どもたちについて心配があった（ ）
- ☐ 7. 子どもたちについて、特に心配なことはなかった

＜子育てについて＞

- ☐ 1. 子どもの世話（抱き方、授乳、入浴など）の仕方が、これでいいか心配だった
- ☐ 2. いつ離乳食をはじめると良いかわからなかった
- ☐ 3. 授乳の方法やタイミングに悩んだ
- ☐ 4. お風呂の入れ方やタイミングに悩んだ
- ☐ 5. 家族が子育てに協力的ではなかった
- ☐ 6. きょうだいの世話が十分にできなかった
- ☐ 7. 外出することが大変だった
- ☐ 8. その他、子育てについて心配なことがあった（）
- ☐ 9. 子育てについて、特に心配なことはなかった

(Q14③で「まだ歩きはじめていない」を選択した場合は③を通過

③「歩きはじめた頃」（複数回答あり）

＜回答者ご自身について＞

- ☐ 1. 育児による体の疲れ
- ☐ 2. 育児によるこころの疲れ
- ☐ 3. なんとなく孤独だった
- ☐ 4. なんとなく不安だった
- ☐ 5. なんとなく子どもを育てにくいと思った
- ☐ 6. 子どもたちに対する気持ちになんとなく差があるように感じた
- ☐ 7. その他（ ）
- ☐ 8. 特に大変さや心配なことはなかった

＜お子さんたちについて＞

- ☐ 1. 体重の増えかたが順調か心配だった
- ☐ 2. ひとり歩きをするか、意味のある単語を話すかなど、発達が順調か心配だった
- ☐ 3. 夜泣きなど、泣くことが多いことが心配だった
- ☐ 4. 子どもたちの間の体重の増え方や発達の違いが心配だった
- ☐ 5. その他子どもたちについて心配があった（ ）
- ☐ 6. 子どもたちについて、特に心配なことはなかった

＜子育てについて＞

- ☐ 1. 食が細い、好き嫌いが激しい等に悩んだ
- ☐ 2. しつけがこれでいいのか悩んだ
- ☐ 3. 子どもたちが別々に動くので目が離せなかった
- ☐ 4. 家族が子育てに協力的ではなかった
- ☐ 5. きょうだいの世話が十分にできなかった
- ☐ 6. 外出することが大変だった
- ☐ 7. その他、子育てについて心配なことがあった（ ）
- ☐ 8. 子育てについて、特に心配なことはなかった

(Q14④で「まだ3歳になっていない」を選択した場合は④を通過

④「3歳の頃」（複数回答あり）

＜回答者ご自身について＞

- ☐ 1. 育児による体の疲れ
- ☐ 2. 育児によるこころの疲れ
- ☐ 3. なんとなく孤独だった
- ☐ 4. なんとなく不安だった
- ☐ 5. なんとなく子どもを育てにくいと思った
- ☐ 6. 子どもたちに対する気持ちになんとなく差があるように感じた
- ☐ 7. その他（ ）
- ☐ 8. 特に大変さや心配なことはなかった

＜お子さんたちについて＞

- ☐ 1. 体重の増えかたが順調か心配だった
- ☐ 2. ジャンプするか、単語を続けて文章を話すかなど、発達が順調か心配だった
- ☐ 3. 子どもたちの間の体重の増え方やひとり歩き等の発達の違いが心配だった
- ☐ 4. おもちゃの取り合い等でいつも同じ子どもがいつも強いなど、子ども同士の力関係について悩んだ
- ☐ 5. その他、子どもたちについて心配があった（ ）
- ☐ 6. 子どもたちについて、特に心配なことはなかった

＜子育てについて＞

- ☐ 1. 食が細い、好き嫌いが激しい等に悩んだ
- ☐ 2. 友達と遊ぶことが苦手なことに悩んだ
- ☐ 3. トイレトレーニングについて、子どもたちの間で同じように進まず、悩んだ
- ☐ 4. しつけがこれでいいのか悩んだ
- ☐ 5. 子どもたちが別々に動くので目が離せなかった
- ☐ 6. 家族が子育てに協力的ではなかった
- ☐ 7. きょうだいの世話が十分にできなかった
- ☐ 8. 外出することが大変だった
- ☐ 9. その他、子育てについて心配なことがあった（ ）
- ☐ 10. 子育てについて、特に心配なことはなかった

Q16 どのように心配なことや大変なことを乗り越えましたか。

Q17 心配なことや大変なことをのりきるために、どのようなサポートや情報があると良いですか。

① これまでに欲しかったサポートや情報

② 現在、欲しいサポートや情報

Q18 多胎児を妊娠中・子育て中の後輩パパ・ママへ伝えたい工夫の仕方や、エールをお願いします。

Q19 その他、多胎児の育児について、御意見等をご記入ください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。